

05 地域コミュニティ活動

基本情報



【年齢】
23歳
【出身地】
広島県三次市
【転出元】
北海道旭川市
【前職】
学生
【活動時期】
R4.4~
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

学生時代からスキー競技をしており、大学卒業後も仕事をしながらスキーを全力で取り組みたいと考えていた。

知り合いから地域おこし協力隊の話聞いて、中高美術の教員免許やスキー指導員の資格を活かして、地域のイベント企画に携わりながら、選手として活動を続けようと思って応募した。

今後の抱負・任期後の目標

一つ分野にとらわれず、色々な方をつなげる活動をしたい。自分がジョイント役になり、地域の魅力を地域外に発信したり、逆に地域の方にも地域の魅力を再発見してもらおうような地域おこし活動を目指す。

また、自身の経験や知識を活かして、子どもたちを対象に、写生大会や工作教室を開催したい。

活動内容

●市民グループ「ズリ山ハイキング」の立ち上げ

万字炭山森林公園のズリ山を広く知ってもらおうと、ズリ山を登る市民グループの立ち上げに関わる。ズリ山とは、石炭採掘時に発生した捨石が積み上げられ山となったものであり、山頂に続く直線階段（775段）を上りながら四季折々の風景を望むことができる。



●地域の情報発信

地域おこし推進員のSNS（インスタグラム）を開設し、地域に住んでいるからこそ気付く魅力を発信している。



●地域活動への参画

田植えなどの農作業や町内会のゴミ拾いや会合への出席、地域のお祭りの手伝いや地域で開催されるイベントのサポート等、地域で行われる行事に参加しながら、いずれ自身が主催するイベントの構想を膨らませながら、地域住民と信頼関係を構築していく。



連絡先

メディア等の取材連絡先】

岩見沢市企画財政部企画室 TEL:0126-35-4834

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

■Instagram (@iwamizawa_life)

■Instagram (@iwamizawa_grashi)

基本情報



【年 齢】
23歳
【出身地】
神奈川県鎌倉市
【転出先】
北海道網走市
【前 職】
IT 人材派遣営業
【活動時期】
R3.5～R6.3
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

以前までは東京で仕事をしていましたが、地方で働きたいという意欲が強くなり網走を訪れたことがあったため応募した。リクナビでこの仕事を見つけ情報を収集した。

今後の抱負・任期後の目標

現在手掛けている流氷ラスクのパッケージリニューアルやふるさと納税、ゲストハウス、コワーキングスペースの4つの取り組みを商店街のお店とより強く結びつけること。また、イベントや新商品発売などやりたいことは多岐に及ぶ。

活動内容

●活動内容 商品リニューアル

商店街にあるパン屋さんで作られている「流氷ラスク」という商品の、パッケージリニューアル兼販路拡大を行っている。今まで長年愛されていたパッケージではあるが、幅広い年代の方がより手に取って頂きやすいパッケージに変え、パン屋さんでしか買えなかったラスクを空港やホテル、観光施設などにも置き、お土産としての価値を上げていきたい。



●活動内容 ゲストハウス運営

商店街にあるビルの使われていない一室を利用してゲストハウスの運営をしている。商店街の中にゲストハウスを作ることによって滞客が商店街に流れ、飲食店や地元のスーパーなどに行くきっかけになる。また下記のコワーキングスペースと合わせてワーケーションに繋げることができれば、本州の企業なども誘致できる。



●活動内容 コワーキングスペース運営

かつて時計屋さんであった商店街の空き店舗をリニューアルしてコワーキングスペースにした。この場所で人が集まり新たなものが生まれる空間にするために作った。どれも商店街の中で生まれて商店街の外に向けて作られているものになり、もっと広く市外道外をはじめ広く知っていただけるようになりたい。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Twitter : @abashiri_ura Facebook : 浦雅人@網走市地域おこし協力隊

基本情報



【年齢】
25歳
【出身地】
北海道富良野市
【転出元】
北海道札幌市
【前職】
柔道整備師・鍼灸師
【活動時期】
R4.4～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

地方の人口減少が著しい中、野球を通じて選手の育成と地域が抱える課題を解決するために活動する士別サムライブレイズという球団の考え・姿勢に感銘を受けました。

そのような中、士別市が特色ある地域資源を活用して地域の活性化や交流人口の拡大を図ること目的として、地元球団「士別サムライブレイズ」の運営に関する支援活動を行う地域おこし協力隊を募集していたことから応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

今シーズン、トレーナーとしては選手のコンディショニングやリハビリをメインにお仕事をさせていただきました。チームとしては、HFLの初代チャンピオンチームになることができましたが、終盤にかけて選手のパフォーマンスが落ちてしまったのが、トレーナーとしての課題です。

来シーズンはシーズンを乗り切れるようなメニューを組み、選手がベストパフォーマンスを最後まで発揮できるようにしていきたいです。

活動内容

●スポーツの振興及びスポーツを通じた交流人口拡大に向けた活動

- ・朝日三望台ジャンツェ（ジャンプ台）の整備
- ・朝日山村広場（グラウンド）の整備
- ・朝日プールのオープン準備
- ・各種ジャンプ大会の運営スタッフ



●天塩岳などの観光資源を活用した観光客誘致に向けた活動

- ・天塩岳登山道の橋掛け作業
- ・天塩岳登山道の橋上げ作業
- ・観光施設の雪下ろし作業



●士別サムライブレイズの運営に関する支援活動

- ・ホームゲームの運営
- ・チームスタッフ（トレーナー）として試合同行
- ・チームホームページやサポーターズクラブの運営
- ・イベント（感謝祭等）の企画立案



●その他の活動

- ・市内保育園の園庭整備
- ・市内小学生を対象とした野球指導



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) info@s-bets.jp (電話番号) 0165-28-2600

基本情報



【年齢】
56歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
神奈川県川崎市
【前職】
会社員
【活動時期】
R3.7～(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

早期退職を機に出身地の札幌市に近く、家から海に沈む夕陽がきれいに見られる土地が見つかった厚田への移住を決断。

今までは会社中心の生活で地域コミュニティ活動には一切関わって来なかったのですが、退職後は地域に溶け込み、地域に役立つことをしたいと思い、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

昨年は1年目でどんな活動をしたらいいのかもわからず、また、コロナで様々な地域行事が中止となり、ほとんど活動できなかったのですが、2年目の今年は夏に地域に人達が気軽に集まって話ができる「広場」を作ってみたり、東京で厚田をPRするイベントを開催したりしました。冬には豪雪を活かし、イグルー作り体験も実施してみたいと考えています。退任後は家庭菜園でもしながらのんびり生活しつつ、地域活動のお手伝いは積極的に行っていきたいと思っています。

活動内容

●あつた広場・もうらい広場

厚田には市街地に夜営業をしている飲食店がなく、大人のたまり場がないというのが課題のひとつ。

そこでお寺の境内を借りてイスとテーブルを用意し、食べ物と飲み物は持参して、青空のもと昔話や近況などを話しながら、盛り上がりました。

地域活性化のヒントもたくさん出てきました。



●愛宕マルシェ

東京港区の愛宕神社の例大祭に合わせて、愛宕マルシェ「第一回お国自慢市」北海道石狩市厚田編を開催しました。

写真・ポスター・動画を使って石狩/厚田の魅力を伝えると共に、旬の鮭・イクラを含めた特産品を使った料理を提供し、厚田をPRしてきました。



●地域振興団体の活動サポート

厚田には「移送」・「除雪」の2つの地域課題に取り組んでいるNPO法人あつたライフサポートの会があります。

今年は記録的な大雪だったので、「除雪」依頼件数も相当あり、一緒に活動をさせていただきました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) a-chiikis@city.ishikari.Hokkaido.jp
(電話番号) 0133-78-2012

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Facebook) <http://ja-jp.facebook.com/ishikari.chiikiokoshi/>

基本情報



【年 齢】
30歳
【出身地】
茨城県 桜川市
【転出元】
栃木県 宇都宮市
【前 職】
山小屋スタッフ (宿泊業)
【活動時期】
R3.12~
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

長くシーズンワーカーとして夏は山小屋、冬は住み込みで各地を転々としながら仕事をするという生活を送っていた。協力隊になる前年、冬季に上川町で仕事をする機会があり、その際に地域の人や地域おこし協力隊の方と関わったことが、コミュニティに入るきっかけになった。これを機に移住し、地域おこし協力隊の活動を通して、自分の仕事を作ろうと考え、応募した。

今後の抱負・任期後の目標

自分のスキルで、地域の課題解決や、地域住民のためになることを仕事に行きたいと考えている。プロデュース業やディレクション業を主体としながらも、コミュニティ形成の一環として現場での作業も仕事にしたいと考えている。具体的には、イベント企画・コーディネーターや、森づくりの活動、「コミュニティ大工」として空き家活用事業などを仕事にしたいと考えている。

活動内容

● イベント企画、プロデュース、写真撮影

「本と珈琲と〇〇」という名前で、マルシェのようなイベントを月に一度企画・運営している。上川町に限らず、道内各地で開催することで、ローカルの間が地域間を移動し、新たな何かが生まれるきっかけになればと考えている。その他にも、アウトドアイベント、地域コミュニティ形成につながるようなイベントを企画・運営・サポートしている。また、カメラマンとしてサポートすることもあり。



● アウトドアコンテンツ創出、森づくり活動

アウトドアスポーツのようなアクティビティというよりは、キャンプのように、自然の中に入る、体感するというところに重きを置いたコンテンツ創出、場づくりを行なっている。また、森づくり自体をコンテンツと捉え、上川町町有林の再利活用の取り組み一環として、林業の現場作業のサポートや、森の中での体験コンテンツ創出を行っている。今後は林業従事者の高齢化や人材不足の解決のためのコーディネーターや、町有林を使ったプロダクト制作なども行う予定。



● 空き家活用事業

今後、上川町は空き家の利活用が課題となる。DIYや大工業のスキルを活かし、現場で作業に携わりながら、過疎地の空き家の利活用自体がコミュニティ形成の手段になったり、施主(移住者など)がコミュニティに入る架け橋になるような、「コミュニティ大工」として活動予定。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
a.tasaki@kamikawork.jp (上川町役場担当係) 01658-2-4063

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram : 本と珈琲と〇〇 (プロフィールより個人アカウントリンク有)



基本情報



【年齢】
57歳
【出身地】
愛知県一宮市
【転出元】
東京都狛江市
【前職】
広告会社
【活動時期】
R3.9~
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

前職の広告会社を退職し、第二の人生を自然豊かな「ひがし北海道」で暮らし、今までの経験を生かして地方活性化に貢献したいと思い、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

残りの任期で、さらに村の課題を見極め、課題解決に向けた取り組みを実施していきたいと思っています。
任期後はその課題解決を担う活動をしていきたいと考えています。

活動内容

● 自転車によるまちおこし

鶴居サイクルスポーツ振興会 事務局員として、

- ・ サイクルイベント企画実施
- ・ レンタル自転車事業立ち上げ を実施。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(電話番号) 0154-64-2100

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

https://twitter.com/tsurui_official

<https://vrev-t.com/>

<https://famispo-up.com/>

https://twitter.com/famispo_up

基本情報



【年齢】
50歳
【出身地】
青森県 弘前市
【転出元】
静岡県 伊東市
【前職】
ペンション経営
【活動時期】
R元.7～ R4.6

協力隊に応募したきっかけ

20年間伊豆で家族とペンションを経営してきましたが、40代後半となり、私の出身地である弘前への移住を考えるようになりました。相馬地区で、現役協力隊員のお話を聞いた時にうなずける点が多くあり、現在取り組んでいることが活かせるのではないかと考えるようになりました。そこで、相馬地区のりんご、星空、オニテナガエビなどの豊かな自然と地元の方々との繋がりを通して、生まれ故郷の地域活性化のお手伝いがしたいと強く感じるようになり応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

・キッチンカーの経営
前職で培ってきた無理なく始められるハワイアンフードを中心とした商品構成、また活動地区は農村地区でもあったので、農繁期の食卓の手助けとなれるよう、畑へのデリバリーも視野に入れています。
・女性専用シェアハウスの経営
活動を通じて見えてきた課題である、看護師を目指す学生は多いのに県外流出率はワースト1という現状を緩和できるよう、県外から来られた学生のサポートをできるようなシェアハウスの運営を行っていきたいです。

活動内容

●地域の役に立つものづくり

菓子製作技術向上のため洋菓子店への研修
相馬地区PRのための日めくりカレンダー製作
廃棄する材料を活用しての染め物製作



●地域活動、情報発信

食料品などの移動販売を行い
高齢者の買い物支援
地元テレビ局のふるさと特派員として地域の情報発信
FM青森出演
総務省主催全国イベント出演



●起業にむけて

起業補助金を利用してキッチンカーを作製、コロナ禍でも受け入れられる新たな販路

女性専用のシェアハウス経営



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) hauoli.cafe0812@gmail.com
(電話番号) 090-6808-2042

基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
岩手県 宮古市
【転出元】
東京都 渋谷区
【前 職】
撮影スタジオ
【活動時期】
R2.10～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

高校から地元岩手を離れて生活をしてきました。地元に対しては、それまで何にも魅力が無いと思っていましたが、離れたことで、自分が地元のことを何も知らないだけだったのだと気が付き、いずれは岩手に戻って仕事がしたいと考えるようになりました。

前職を退職し、次の行先に悩んでいたところ、築100年以上の古民家で、暮らしながら仕事ができると紹介を受け、「いつか叶えたい地元での仕事」をこのタイミングで実現できれば、と応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

150世帯ほどの小さな集落だからこそ、人との関わりを大切に、この地で続いてきた仕事や、芸能、暮らしぶりを少しでも受け継いでいけたらと考えています。2年後、3年間撮りためた大ケ生集落の写真を、写真展として発表する予定です。退任後、何を生業に生活していくのか、まだ模索中ですが、継承している郷土芸能や、地域の方との関わりを任期中だけで終わらせることなく、継続して地域の暮らしぶりを次の世代へ伝えていける、そんな活動ができたらと考えています。

活動内容

●大ケ生暮らしの維持活動

活動拠点の大ケ生地域は、牛、りんご、米、きゅうりなどの飼育、栽培が盛んな地域です。何か一つに絞るのではなく、地域の様々な農家さんへ作業のお手伝いへ行っています。移り行く季節と共に、お手伝いに通う場所も変わり、同時にこの土地ならではの様々な暮らし方を先輩方から教わっています。



●大ケ生暮らしの記録活動

写真が好きなこともあり、農作業の合間、そこで知り合った方や、郷土料理、季節の土地の景色を写真で記録しています。同市、協力隊の仲間と共に、フリーペーパーを発行したり、地元の情報誌へ連載をさせてもらったりと、地域の方から外の方まで幅広く、ここでの暮らしを記録・発信しています。



●大ケ生暮らしの模索活動

今お手伝いに通っている、農家の道を自分も進むのか？新たに仕事を創るのか？チェーンソー講座や機織りの教室に通ったり、地元で採取できる木の樹皮を使って工芸品製作に取り組んだり…。暮らしている古民家では不定期でイベントも開催しながら、地域で生活していくための術を模索しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) nosei@city.morioka.iwate.jp
(電話番号) 019-613-8458

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram @koalakamado (こあらかまど)

基本情報



【年 齢】
45歳
【出身地】
福岡県 福岡市
【転出元】
埼玉県 川越市
【前 職】
イベント企画
【活動時期】
R2.10～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

埼玉県三芳町の文化会館にてイベント企画の仕事に就いていたが、新型コロナウイルスの影響で仕事のあり方を模索している所に、地域おこし協力隊の存在を知り、興味を持ったことが応募のきっかけ。遠野市の地域おこし協力隊を選んだのは、与えられるミッションだけでなく、その他にも色々と挑戦させてもらえること、またその裁量がある程度私に任せただけの懐の広さに魅力を感じたからである。

今後の抱負・任期後の目標

今までに培った経験や人脈を活かしたイベント開催を通じ、地域の方だけでなく、その近隣のエリアの方と一緒に楽しい時間を過ごし、私や関係者とだけでなく、参加者同士が繋がってネットワークを広げられる場や時間を今後も届けていきたい。その他、現在遠野市で暮らす園児や小学生たちに向けて、遠野市を舞台にした絵本を作り、彼らの故郷となる遠野の自然や文化の豊かさを、伝えることができたらと考えている。

活動内容

●ねこせでキネマ映画上映会

地域の方々と一緒に映画を楽しめる上映会を季節ごとに1回開催している。上映する作品はみんなで一緒に感動したり笑ったりできる名作「幸せの黄色いハンカチ」「学校」などを選定。上映会は自身で「ねこせでキネマ」と称して主催している。



●ドイツから学ぶ手製本ワークショップ

こども本の森遠野と連携した企画。紙と針、糸を使って参加者に手製本の魅力を伝えている。講師には私の友人であり、現在ドイツベルリンで製本家として活動している小関佐季氏をオンラインで迎え、遠野とドイツを結びながら手製本をレクチャーし、また仕事場であるスタジオを参加者にガイドする「知って作って旅するワークショップ」を開催した。



●生涯学習講座 朗読に触れる

遠野市教育文化振興財団と連携した企画。講師に現在東京で朗読教室を開催している岡安圭子氏をオンラインで招き、宮沢賢治の「やまなし」などをテキストに選定。作品を参加者がリレー形式で朗読することで、朗読に触れるだけでなく、参加者同士でチームとなって交流を深めていただいた。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(電話番号) 0198-62-2111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Facebook)



基本情報



【年齢】
50歳
【出身地】
埼玉県 加須市
【転出元】
東京都 目黒区
【前職】
起業家支援
【活動時期】
R4.9～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

2年ほど前から、岩手町が取り組む「SDGs未来都市共創プロジェクト」の活動に参加しておりました。その後もワークショップの講師をさせていただいたりと何度も町を訪問し、自然豊かな素晴らしい環境に触れ、町民の皆さんや関係者の方々が真剣にまた楽しみながらまちづくりに取り組まれている様子を拝見するうちに、私もその一員として共に岩手町の未来作りに参加したいとの気持ちが強くなり、協力隊に応募させていただきました。

今後の抱負・任期後の目標

まずは多くの住民の方々と対話の機会を持ち、一日も早く町民の仲間入りをしたいと思っております。その上で皆さんの感じる岩手町の社会課題と地域の良さをヒアリングさせていただきます。長く住んでいる方にとっては当たり前のことでも、他の地域の方から見るととても魅力的なことが多くあるものです。それらを外部に発信することで町のファンを増やしていきます。活動を通じて関わる全ての方との出会いを大切に、任期後も岩手町と他地域をつなぐ架け橋としての役割を担っていきたくと考えています。

活動内容

●地域課題解決チーム

岩手町の様々な社会課題を発掘し、その解決に取り組む「地域課題解決チーム」を組成します。課題解決への活動は地域住民（学生や若者、知見をお持ちのお年寄り、子育て中の女性、子どもたち等幅広い層）を中心に、町外の方々も巻き込んだイベントとして、多角的な視点で実施します。



●関係人口・交流人口の拡大

岩手町の課題解決活動には、町外の方々にも積極的に関わっていただきます。共に活動し、町の魅力に触れることで、岩手町を第二の故郷とする方を増やします。また他の自治体で同様の活動をしている団体や企業、学校とも連携をとることにより、情報交換だけでなく交流活動を促進します。



●シビックプライドの醸成

課題解決活動には地域資本（人的資本・物理的資本・社会関係資本）を最大限に活用し、参加者が自分の町を改めて見直すことで、町の魅力を再確認することが可能です。特に次代を担う小中高校生の皆さんには、若者の視点で見た岩手町の魅力の発信を期待しており、最大限応援したいと思います。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) kamimura@white-box.org
(電話番号) 0195-62-2111 (内線218・219)
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Facebook) <https://www.facebook.com/Ateam.Iwate/>
(twitter) @Ateam_Iwate

基本情報



【年齢】
49歳
【出身地】
富山県 砺波市
【転出元】
埼玉県 和光市
【前職】
カメラマン
【活動時期】
R2.10～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

仕事で岩手県をはじめとする東北地方へ訪れることが多く、そのたびに東北地方特有の古くから残る生活や文化、芸術に魅了され、もっと深く知りたいと思うようになりました。次第に東北地方に移住したいと考え始め、意を決して東京有楽町にあるふるさと回帰支援センターを尋ねました。そこで岩手町地域おこし協力隊「しごとクリエイター」の募集を知り、以前からの目標であります写真スタジオを岩手町で開業したいと考え応募しました。また、自分が魅了された東北地方特有の生活、文化、芸術などを自分の写真作品として残していきたいことも応募理由であります。

今後の抱負・任期後の目標

任期後の目標は、岩手町に写真スタジオを開業することです。そこで一般のお客様用の家族記念写真、事業者様の広告用商品撮影などを行い、不定期ではありますが写真に関します講座やワークショップなども開催したいと考えております。その目標のために今後は写真スタジオの整備を本格的に行っていきます。写真が好きな人、学びたい人が気軽に立ち寄り、雑談などができるようなオープンな空間にしたいです。

活動内容

●IWATEMACHI写真講座

7月に写真の楽しさを知ってもらうことを目的とした写真講座(全3回)を開催しました。受講生はカメラまかせのフルオートではなく、自分でカメラを操作しカメラに撮らされているのではない「自分の写真」を撮ることを目指しました。受講生は初心者の方が多く、優しくシンプルに伝えることに苦労しましたが、無事に講座を終えることができました。(10月に第2回目開催予定)



●岩手町写真素材収集(共有)

役場関係者の方が中心となってしまいますが、自身が撮影した岩手町の写真を、いつでも自由に使用してもらう目的でGoogleフォトにて写真共有を行っております。自身この活動を始めてから岩手町の豊かな自然や伝統ある祭りなどを体感し、町に対しての愛着が湧きました。今後は、岩手町のもっと深い部分を掘り下げ撮影していきたいと意欲に満ちております。

※写真使用例(広報いわてまち11月号「モビリティコート」)



●岩手町事業者様の商品写真撮影

岩手町には、家具職人、工芸作家などが素晴らしい作品を作っています。それらを写真として納めたいと思い、始めました。普通に定常光で撮るのではなく、大型ストロボを使用した光による演出も加え、どう撮ればそのもの自体が魅力的な写真になるかを研究しています。また撮影した写真を本人にプレゼントすることで、コミュニケーションをとる良いきっかけ作りとなっております。

※写真(岩手町家具工房 T-factory 地産材使用ベンチ)



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(ホームページ) <https://oimatu.hp.peraichi.com/iwatemachi.lvc>

基本情報



【年齢】
46歳
【出身地】
東京都
【転出元】
東京都品川区
【前職】
首都圏私立大学
学生相談室カウンセラー他
【活動時期】
R4.7～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

これまで臨床心理士として、主に個を支える活動に従事する中でいかに個人が精神的に孤立した状況の中で生活をしていて、それがメンタルヘルスに非常に大きく影響していることを痛感し、徐々に個を支えるコミュニティに興味を持ち始めました。またコロナ禍で自分自身の生き方、今何をすべきかを再考する機会もあり、『いつか』住みたいと思っていた場所：宮城県で、やってみたいと思っていたコミュニティづくりに関わることを『今』やろう！と考え始めました。そのタイミングで現在携わっている地域おこし協力隊のプロジェクトを見つけ、応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

地域住民の方が繋がりを感じられる居場所作りとメンタルヘルスに関わる活動が何らかの形で繋げられないか、模索してみたいと考えております。コミュニケーションスキルとしてのアサーション講座や日常に役立つ心理学講座の企画・開催にも力を入れていき、任期後の自身の活動の柱となるようなプログラム構築にも取り組んでいきたいです。個人的には農にも関心があり、将来的に半農半X的な生き方にも挑戦できたらと思っています。

活動内容

【活動目標：地域共生社会を目指して～居場所・交流の場づくり】

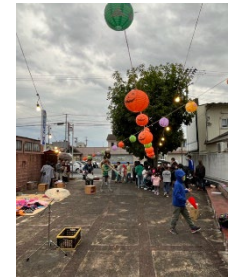
●居場所づくり：放課後学習スペースの運営

インターン期間中に実施した住民インタビューでの『事業所周辺に集会所など子供達が集まれる場所がない』という声に基づき、事業所内の一部スペースを放課後学習スペースとして子供たちに開放する取り組みを始めました。現在1ヶ月にのべ50人程度、主に小学生が自主的に宿題に取り組んだり、ゲームなどで遊ぶ場として利用しています。



●地域住民との協働：地域イベントの開催

子供の遊び場づくりなどで活躍されている住民の方と地域への想いで繋がり、イベントの共同企画・開催に至りました。子供達の仮装パレード、バンドライブ、住民参加のフリーライブ。大人も子どもも笑顔いっぱい盛り上がり、街のチカラと希望を参加者と共に感じたひとときでした。今後も地域の活力となるような交流の機会を住民の方と共に創っていきたいと思います。



●交流の場づくり：ヨガクラスの開催

地域の大人向け交流の場づくりの一つとして、また心身の健康サポートの一つとしてリラックスヨガのクラスを月に1回の頻度で始めました。『自分に還る時間』としてご利用いただいています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】一般社団法人 りぷらす
(メールアドレス) info@link-replus.com (電話番号) 0225-98-8957

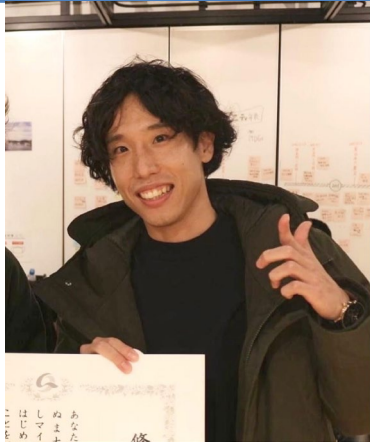
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

ブログ：<https://replus.hatenablog.jp>

Facebook：<https://www.facebook.com/ri.link.plus/>

instagram：<https://www.instagram.com/ri.link.plus/>

基本情報



【年齢】
31歳
【出身地】
千葉県成田市
【転出元】
千葉県成田市
【前職】
立教大学 コミュニティ福祉学部 東日本大震災復興支援推進室
【活動時期】
2020年5月～(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

ボランティアとして何度も足を運ぶ中で、気仙沼市で信頼できる人達が沢山出来たことがきっかけ。このまちのポジティブな部分もネガティブな部分も両方を知ってまちづくりに関わりたいと思ったから。一番は自分が好きなダンスを通して市内の人材育成に貢献したいと思い、気仙沼まち大学運営協議会のビジョンに強く共感したから。

今後の抱負・任期後の目標

任期後には起業して、ダンスインストラクターを生業にして生活していくこと。気仙沼市でダンスを通して、心身ともに健やかに生活できることも増えていくことを目指している。気仙沼市という地域によりフィットした形で事業形態を検討している。

活動内容

●気仙沼まち大学運営協議会 □shipの運営

会員制コワーキングスペース □ship(スクエアシップ)を拠点に、学びの場の提供、対話・協働・協創が生まれていくような場づくりを実践。新しいチャレンジやイノベーションが次々と生まれてしていく市民が主役のまちづくりを実現するために活動している。



●スタジオでのダンス指導

気仙沼市をはじめ、岩手県一関市、大船渡市のダンススタジオにてインストラクターとして勤務。小学生～高校生まで指導している。気仙沼市だけでなく近隣地域とも連携を進めて、ダンスの魅力を広げていきたいと考えている。



●高校の授業にてダンス指導

市内の高校にて非常勤講師として勤務。教育活動として豊かな表現力を身に着くことを目的としてダンスの授業を担当している。ダンステクニックを覚えるだけでなく振付けを創作する時間をつくり、生徒ひとりひとりの主体性も大切に授業を行っている。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) https://www.instagram.com/shinku_info/?hl=ja

基本情報



【年齢】
36歳
【出身地】
宮城県 柴田町
【転出元】
宮城県 柴田町
【前職】
サービス業
【活動時期】
R3.10～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

父が能代市の南の三種町、母が能代市の北の八峰町出身で、子どもの頃は毎年能代市に遊びに来ていました。台風とコロナで職を点々としていた時に能代市で協力隊の募集があることを知り、多少なりとも縁のある土地で地域おこしに協力したいと思って応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

配属された梅内地区は、冷泉や蕎麦などの広く知られていない特産品、名産品が多数あります。高齢化が進み情報発信がうまくできていないので、梅内地区の魅力をどんどん発信していきたいです。任期後は蕎麦打ちを生業にできたらと思います。

活動内容

●梅内駒踊りのYouTubeライブ配信、zoom対談

2022年8月13日にコロナにより3年ぶりに開催された「梅内駒踊り」をYouTubeのライブ配信で発信した。また、踊り終了後に、踊り手と転出してしまったかつての踊り手とをzoomミーティングを使ってリアルタイムで繋ぎ、対談してもらった。



●蕎麦打ち体験会開催

梅内地区の特産品である「田ノ源そば」の蕎麦打ち体験会を企画・開催した。その後地域住民主体で開催した蕎麦打ち体験会に講師側で参加した。



●宝の森林プロジェクト活動参加

梅内で活動している「宝の森林（やま）プロジェクト」の山仕事に参加し、薪の出荷や集落林の管理を手伝っている。また、同団体で女性陣が活動している「山菜倶楽部」にも参加し、山仕事の副産物である山菜類の採集・出荷も手伝っている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) morihi@me.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Facebook <https://www.facebook.com/umenai.syuraku>

基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
秋田県秋田市
【転出元】
秋田県秋田市
【前 職】
自営業
【活動時期】
R3.10～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

子どもの誕生をきっかけに、食の安全や環境について意識するようになりました。そんな時、夫が消滅可能性都市を免れた大潟村に魅力を感じ、移住を提案してくれたことがきっかけです。当初は村内で飲食店を運営することを考えていました。大潟村を知れば知るほど、自然環境の意識の高さや居住区がコンパクトで美しいまち、住人との距離の近さなどそのポテンシャルの高さにひかれていきました。村の一員になるためにはまず、自分自身が村に貢献したいと考え、地域おこし協力隊の応募を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

今年度は農業体験や市民農園のほか、農繁期の農家へのランチBOX提供、カフェの開催に向け活動しています。大きな活動としては、生態系公園で「カタマルシェ」と題して、農家、飲食店、商店などの参加による、オーガニックでサスティナブルな暮らしを発信し、交流を拡大、情報共有するためのイベントを計画しています。また、県立大学と連携し、学生による村歩きマップの作成など、積極的な活動を予定しています。

活動内容

●地域のイベントへの参加

安心安全な農作物を使用した商品開発や飲食店での活動による活性化、より良い子育て環境の確保に向けた活動を目指しています。着任後、まずは地域を知り、輪を広げるためにも様々な団体の企画するイベントや多数の活動に参加、これまでの経験を活かし、自らも発案、多彩な活動を展開しています。



●カタマルシェ開催 (来場者数3200人)

令和4年6月にカタマルシェを開催しました。「地球の未来を考え、やさしいモノづくりをする人たちを応援したい」をコンセプトに、有機栽培や特別栽培に力を入れ、心身ともに健康な生活を送れる大潟村から、安心安全な農産物を顔を合わせ販売・購入してもらいたいという思いからスタートしました。



●カタマルシェアート編開催 (来場者数3489人)

令和4年10月にカタマルシェ第2回目を開催しました。アート編と題し、オーガニック志向のみならず、子育てとそのコミュニティに注目し、親子や友だちとのふれあいの場、想像力・判断力・社会性を自然と身につけられるような、芸術を用いて自由に遊べるフィールドを提供するために開催しました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) g-kikaku@vill.ogata.akita.jp (電話番号) 0185-45-2111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(カタマルシェホームページ) <https://katamarche.studio.site/>

基本情報



【年齢】
45歳
【出身地】
山形県 酒田市
【転出元】
大阪府 大阪市
【前職】
飲食業
【活動時期】
R3.7～（2年目）

協力隊に応募したきっかけ

地元を離れて約20年間、大阪で調理の仕事をしていました。大阪での多忙な生活の中、休日は山や森などの緑に囲まれたところへ足を運び過ごすことが多かったです。

コロナ禍のあおりを受けて仕事を辞めることとなり、これからのことを考えていた時、酒田市のホームページで地域おこし協力隊募集の情報を発見し、地元である酒田でなら自然に寄り添った生活をしながら、これまでの食に関わる経験や知識を活かせるのではないかと思います。

今後の抱負・任期後の目標

ありがたいことに沢山の方から声をかけていただき、調理講師や料理の勉強など多くの経験をさせていただきました。

これからも引き続き、食を通して多くの方と交流しながら地域の盛り上がりにも貢献できるような活動をしていきたいと思っています。

また、フードロスや食文化の伝承・保存といった事にも挑戦していきたいと思っています。

活動内容

●内郷地区親子料理教室/100歳体操

内郷地区の年間行事である『内郷地区親子料理教室』で講師となり、台湾カステラを教えたところ、大盛況でした。

この料理教室がきっかけで、内郷地区の『100歳体操』で毎月1回茶菓子を提供することとなりました。地域の方とお茶会をしながら、地元食材やその調理方法、郷土料理などについて教えて頂ける絶好な機会となっており、今後の事業につながるヒントとなっております。



●おとこかれーくらぶ講師

社会福祉協議会松山支部様から調理講師のお誘いがあり、令和3年10月から毎月、『おとこかれーくらぶ』の講師をしています。最近では参加者の皆さまの料理スキルが上がってきており、少し難しい料理にも挑戦しています。このことを、地域おこし協力隊通信『つちstagram』で発信したところ、活動の知名度が上がり、松山地域内外から講師のお誘いや、料理提供の依頼を受けることが増えています。



●出店『ツチダノヤタイ』

『夏祭り&まつみね灯籠流し』へのお誘いを受け、テイクアウト屋台『ツチダノヤタイ』を出店しました。暑い中準備も大変でしたが、周りの方々のサポートもあり、無事完売できました。また、夏祭りが好評だったため、松山地域イベント『秋まつり』出店へのお誘いを受けており、内郷地域で採れた栗を活用したお菓子を考案中です。今後も地元食材を活かしながら、地域の方々と交流していければと思います。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

酒田市内郷コミュニティセンター

（メールアドレス） uchikomi@tuba.ocn.ne.jp

（電話番号） 0234-62-2933

【活動の様子の発信】

（酒田市HP掲載） つちstagram

<https://www.city.sakata.lg.jp/kurashi/chiikiokoshi/mchiki030415.html>

基本情報



【年齢】30歳

【活動時期】R3.4 ~

【出身地】栃木県上三川町

【転出元】東京都渋谷区

【前職】大学職員

【活動概要】

- ・ソーシャル系大学「結城マチナカ大学」の設立及び運営
- ・地域イベントの企画運営

協力隊に応募したきっかけ

結城市の地域づくりに尽力している「結いプロジェクト」と出会い、この街のヒト・モノ・コトの資源に大きな魅力を感じ、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

結城市初となるソーシャル系大学「結城マチナカ大学」を設立し、市民の皆様が楽しんで学べる活動の場を提供していきたいと考えています。

活動内容

●「結城マチナカ大学」の運営

年齢や職業に関係なく市民が互いに学びあえる場「結城マチナカ大学」を新設・運営し、暮らしと遊びをもっと楽しむためのコミュニティ形成に取り組んでいます。現在、サウナ学科、座禅学科、リノベ学科、英語学科などが活動中。



●フォトスポットマップの作製

市オリジナル婚姻届と連携し、結城市へ婚姻届を提出したすべての方への特典として、結城紬着心地体験利用券とフォトスポットマップをプレゼント。ユネスコ無形文化遺産にも登録された最高級の絹織物「結城紬」が映えるスポットをマップにしました。



●街なか音楽祭「結いのおと」

街なか音楽祭「結いのおと」の実行委員としてライブ・マルシェの運営を行いました。街なかにある酒蔵やお寺、古民家などがライブステージになり、日常とは違った結城の姿を体感できるサーキット型の音楽フェスで、市内外より多くのお客さんで賑わいました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

基本情報



【年齢】
26歳
【出身地】
兵庫県西宮市
【転出元】
大阪府大阪市
【前職】
人材派遣会社の営業
【活動時期】
R2.5～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

前職を退職後、学生時代より志望していた、子ども・若者の居場所支援の分野に絞り、転職活動を行っていたところ、茨城町が地域おこし協力隊として、同分野の求人募集をしていたのがきっかけ。

今後の抱負・任期後の目標

子ども達との関わりについては、これまでと同様に「主体性をもって自由に過ごせる雰囲気」を維持しながら、残りの期間でも起こるであろう気づきや成長の機会に、共に向き合う。
また、それを促せられるようなイベントを複数回計画する。
任期後については、すでに行っている近隣自治体での同様の活動を本格化させる。

活動内容

●コミュニティスペース「Koco·de」の運営

茨城町のコミュニティスペースとして子ども・若者・地域住民が交流しつながらをつくることを目的とした地域の憩いの場。家庭でも学校・職場でもない居場所でゆるやかに寄り添いながら主体性をもって自由に過ごすことができる。



●地域住民による交流の場「Koco·deサロン」

地域住民を対象にした継続的な集まりを行うことで利用者の裾野を広げ、Koco·deの利活用向上を図る。主に手芸などを行う中で、徐々に子ども・若者との接点を増やしコミュニティの醸成を図る。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) tomoya_o@town.ibaraki.lg.jp (電話番号) 029-291-8802

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Facebook) <https://www.facebook.com/townibaraki/>
(LINE) @066yezu

基本情報



【年齢】
23歳
【出身地】
千葉県 船橋市
【転出元】
千葉県 船橋市
【前職】
ペットショップ店員
【活動時期】
R4.4～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

人と話すことと動物が好きで、ペットショップ店員として働いてきました。仕事をしている中で、動物と触れ合える場所がもっとまちにあればいいのという相談を受けているうちに、自然と、まちづくりにも関わられたらと考えるようになりました。

ちょうどそんな時、真岡まちづくりプロジェクトで、学生と地域の大人たちがまちを楽しくする取り組みを行っているのを見て、私もその一員になりたいと思いました。特に、ドッグランの社会実験では、私の経験を活かすことができると思い、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

ドッグトレーナーとしての経験を活かして、犬と飼い主が仲良く暮らせるまちを実現できるように、取り組んでいきたいです。

活動内容

●まちあるき×クリーン作戦

令和4年5月21日(土)まちあるき×クリーン作戦を企画し、32名の参加者と市観光協会のボランティアガイド「もおか観光コンシェルジュ」と共に、真岡の歴史を楽しみながらごみ拾いをするイベントを行い、ゴミ袋6袋分のゴミが集まりました。



●真岡まちづくりプロジェクト

高校生・大学生、大人たちで、市内のもったいない公共空間の活用を考えて実行するプロジェクトに参加しています。

また、真岡まちづくりプロジェクトはグッドデザイン賞2022、令和4年度地域づくり表彰を受賞しました。



●広報もおか10月号表紙、正しい犬の飼い方特集

「正しい犬の飼い方強調月間」にあわせて、広報もおか10月号に特集記事として、犬と飼い主が仲良く暮らせるまちの実現を目指して、PRさせていただきました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】真岡市プロジェクト推進課
(メールアドレス) project@city.moka.lg.jp (電話番号) 0285-83-8059

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

真岡市地域おこし協力隊
Instagram mokacity_chiikiokoshi
Facebook mokashi.chiikiokoshi



Instagram



Facebook

基本情報



【年齢】
27歳
【出身地】
宮城県 仙台市
【転出元】
千葉県 四街道市
【前職】
こどものプログラミング教室ス
タッフ、コーチ
【活動時期】
R2.7～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

栃木に住む友人の紹介から興味を持ったことが最初の入り口でした。決め手は2つです。1つは業務内容に惹かれたことです。ソーシャル系大学設立には以前より興味がありました。もう一つは下野市のヒトです。最初に訪問した際にお話させていただいた地域のプレイヤーの方々の熱量と本気度、そしてよそ者を歓迎してくれる風土を感じ、応募を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

ソーシャル系大学「シモツケ大学」で、企画＆実施のサイクルをたくさん積むこと。コロナ禍で思うように活動できない部分もありましたが、たくさんの方にサポートしていただきながら、地域の方々とながりをすることができました。一人ひとりに寄り添った活動をしていければと思っています。

活動内容

●しもつけしき 石橋縁側2021夏

下野市では「新型コロナウイルス感染症への対応と「地域の賑わい創出」を目的に、JR石橋駅西口にあるグリム通り沿いにオープンテラスを設置する「しもつけしき 石橋縁側」を秋と春に実施しました。



●シモツケ大学

「シモツケ大学」は栃木県下野市で初となるソーシャル系大学です。ソーシャル系大学とは、学校教育法の定める大学ではありません。地域の中に学びの場を創り出し、学びを通して地域社会と関わるコミュニティです。



●『にぎわい広場実験室(通称：にぎラボ)』

2021年4月にOPENした石橋にぎわい広場を活用し、自分たちの手でまちを面白くしているという活動。実験的に様々な活動を行うことで、広場のあり方や可能性を模索中。写真はニュースポーツ「モルック」の体験会の様子。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) sougouseisaku@city.shimotsuke.lg.jp (下野市総合政策課)
(電話番号) 0285-32-8886 (下野市総合政策課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】
<http://mobile.twitter.com/shimotsukesuzu>

基本情報



【年 齢】
56歳
【出身地】
東京都
【転出元】
東京都大田区
【前 職】
大工、システム構築
【活動時期】
R1.11～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

バスツアーがきっかけで、移住する8年前から毎年訪れていました。沼田市の景観やふれあう人々に魅了され、移住を考えていたところに、協力隊の募集があり、決断しました。移住だけでなく地域貢献できるという希望も叶えられました。

今後の抱負・任期後の目標

全国各地で地域の衰退が起こっていますが、当地域の活性化も容易なことではありません。自分の培ってきた経験、知識を活かして若い世代の方々とともにこの地域で生活できる環境作りを目指します。任期後は沼田に定住し、自分のスキルを活用してオンライン完結できるプログラム開発・販売の事業を実施予定。雇用の創出と、ビジネスモデルを知ってもらうことで、これから社会人となる若い方に、沼田での起業を勧めたい。

活動内容

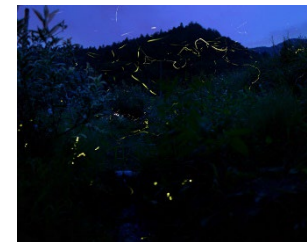
●棚田オーナーイベント

活動団体(薄根地域ふるさと創生推進協議会)でのメイン事業である棚田オーナー制度でのイベント。耕作放棄地を再生し、都会からオーナーを募っている。田植え、観察会、稲刈り、収穫祭と年4回のイベントを実施。年々参加者が増え、総勢100名近い参加。主に広報とカスタマー対応を担当。



●ホテル再生活動

環境保全の一環でホテルの再生事業を実施している。令和元年の開始翌年よりホテルが増え始め、令和4年は延べ400名近い鑑賞者が訪れた。主に広報とカスタマー対応を担当。画像は自身が撮影したもので、新聞やその他メディアにも使用された。



●つなぐ棚田遺産 認定

着任当初から構想を練っていた「つなぐ棚田遺産」に令和4年3月、認定された。主に書類作成と申請を担当。画像は自身がドローン撮影したもので、新聞やその他メディアにも使用された。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(MAIL contact@usunefurusato.com) (電話番号) TEL080-7445-0734
(職場・その他(薄根地域ふるさと創生推進協議会))
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
WEB <https://usunefurusato.com/>
Insta <https://www.instagram.com/usunefurusato/>
FB <https://www.facebook.com/usunefurusato/>
Twitter <https://twitter.com/usunefurusato>

基本情報



【年 齢】
45歳
【出身地】
福島県福島市
【転出元】
千葉県流山市
【前 職】
介護職
【活動時期】
R4.4～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

地元福島では湿った雪が降りますが、冬の片品村はパウダースノーが降ると聞いて、数年前の冬に初めて訪問しました。パウダースノーや雪山の美しさだけでなく、自然が豊かで、夏は涼しく、野菜や水が美味しいことに惚れ込み、何度も訪れるようになりました。いつか移住して農業を学びたいなあと思いつき、片品村地域おこし協力隊の募集に出会い、片品村での実生活を体験するまたとない機会と思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

前職の介護職での経験を片品村での介護予防や高齢者がいつまでも働ける環境作りに活かしたいと思い、高齢者の方から農業を教わりながら、何かしらの援助ができれば、高齢者の介護予防にも寄与することができるのではないかと、さらには高齢者の就労継続支援事業や福祉農園の立ち上げなど、高齢者の居場所作りをしたいと考えています。

また夏のクーラーの要らない快適な環境を利用したワーケーション基地やコワーキングスペースなど、村に雇用や働く世代を呼び込む事業も展開できたら素敵です。

活動内容

●地域包括での介護予防事業の運営

地域包括支援センターでは介護予防体操教室やコミュニティカフェ、介護予防サポーター養成講座などを開催しています。また社会福祉協議会が行う移動販売や地域交流サロンを手伝いながら、地域の困り事や要望などをヒヤリングし、新たな介護予防事業を展開する。

●高齢者の農業継続を支援

高齢者の農作業を手伝いながら、教えてもらうという相互扶助関係を築く。また独居高齢者の安否確認や見守り、話し相手も兼ね、一人で農業を継続するコツや雪深い山間地域で生活の知恵を伝授してもらうとこで、生きがいややりがいを見つけてもらう。

●大規模農業の研修

片品村は冷涼な気候を利用した初夏から秋にかけて大根やトウモロコシ、トマトの栽培が盛んです。首都圏に出荷する農家での農業研修。特に大根は「おはよう百万」と言われるほどかつて稼いでいたと言われ、その生産、出荷におけるノウハウを学ぶ。

●観光資源の体験と発信

片品村は春から秋まで四季折々に変化する尾瀬や武尊山、白根山でのトレッキングや高地でのキャンプ。冬はウィンタースポーツが楽しめるので、実際に体験し、その活用を探り魅力を発信する。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

〒378-0415 群馬県利根郡片品村大字鎌田3967-3

片品村役場 むらづくり観光課

(メールアドレス) omagari-f@vill.katashina.lg.jp

(電話番号) 0278-58-2112

基本情報



【年齢】
34歳
【出身地】
埼玉県草加市
【転出元】
埼玉県草加市
【前職（在籍中）】
観光業、コンサルティング業
【活動時期】
R4.10～

協力隊に応募したきっかけ

2022年5月22日に「株式会社おいでなせえ様」と自身が所属している「VOLバイシクルプラスワン株式会社」との共同のイベントを実施し、イベントを通じて何度も小川町に通いたい、そして地域の方と繋がりたいと強く思いました。そして、おいでなせえ様の方々の地元に対する郷土愛や小川町を良くしていきたいという想いに強く感銘を受け、小川町の魅力を発信するメンバーの一員になりたいと思い、地域おこし協力隊への応募を決意致しました。

今後の抱負・任期後の目標

小川町の有機農業や橘という全国に誇れる農業資源を、生産者と一緒になり体験コンテンツとして開発・販売することで、【小川町で働きながら、心身共にリフレッシュ】ができるような空間を旧上野台中学校のワーキングスペースで作りたいと考えています。体験コンテンツの開発、教育旅行向けのコンテンツ開発、地域内外の方が楽しめるようなイベントなど次世代にも小川町に興味関心を持ってもらえるような仕事をしたいです。また、任期終了後は、任期中に培ったノウハウを活かし、地域内外の人が「農」や「体験」等を通じての交流、地域の魅力を五感で体感し、魅力発信する場を作りたいと考えています。前述の「農」の体験コンテンツ化、サイクリング×地域資源の体験を組み合わせたコンテンツなどを作り、継続的な来訪を生み出す仕組みを作ることで、小川町のファンを作っていきたいと考えています。

活動内容

●旧上野台中学校を拠点としたサイクリングイベントの開催

- 小川町の近隣にある東秩父村、ときがわ町、鳩山町、嵐山町、滑川町などを中心とした比企郡ネットワークを活かしたサイクリングイベントの開催（サイクルロゲイニング、スタンプラリーなど）
- 子ども向け自転車教室の開催



●旧上野台中学校を拠点とした交流イベント・ツアーの開催

- 地域住民向け交流イベントの開催（農業イベント、マルシェなど）
- 地域内外の団体・企業と連携をしたツアーの実施（農業&調理体験ツアーなど）



●個人・団体向けの教育研修パッケージの開発・実施

- 農業や自然体験と社会人の基礎能力を養う研修の開発（団体向け）
- 様々なフィールドで活躍ができる場おこしのプランナー/イベントの育成研修の開発
- 外郭団体と連携した人材研修会の開催



連絡先

基本情報



【年 齢】
40歳
【出身地】
千葉県銚子市
【転出元】
東京都北区
【前 職】
日本語教師
【活動時期】
R2.11 ~
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

大学を卒業後、日本語教師になるという夢をかなえるため台湾に渡り15年間外国人としての生活を経験。日本語教師として現場で経験を積み、その後は本社で部門ディレクターも務めた。その後出産を機に同企業のパートに転身したが、これまでの経験を無駄にしたくなかった。そんな中コロナが猛威を振るい、子育ては家族がいる日本、安心できる環境でいたいと思うようになり帰国。海外経験を活かせる仕事はないかと探していたところ、協力隊（多文化共生）の存在を知り応募。

今後の抱負・任期後の目標

「外国人にとっても住みやすい地域づくり」「銚子と台湾の懸け橋に」「銚子の良きに異国スパイスを！」を motto に活動していきたい。

活動内容

●コミュニケーション支援

- ・行政情報の多言語化（ハザードマップ）
- ・日本語を母語としない市民向け「銚子市役所てつづきガイドブック」を作成
- ・情報提供流通ルートの確保（多文化共生の地域づくり）
- ・日本語及び日本社会に関する学習支援



●生活支援

- ・小・中学校外国人児童 面談協力・通訳
- ・労働環境
(市役所、ハローワーク等施設にて通訳、申請書類の作成等をサポート)

●多文化共生の地域づくり

- ・国際交流イベント開催
- ・地域社会に対する意識啓発



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】
・銚子市地域おこし協力隊FBアカウント
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100064107460200>
・World Travel in Choshi インスタグラムアカウント
https://www.instagram.com/worldtravel_in_choshi/

基本情報



【年齢】
31歳
【出身地】
群馬県高崎市
【転出元】
群馬県高崎市
【前職】
施設管理
【活動時期】
R2.12～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

廃校活用というパワーワードに興味を持ったのがきっかけ。海なし県でしか生活したことがなかったので、島の暮らしを実際に経験してみたいと考えたのも理由の一つ。

全く足を踏み入れたことのない地域で自分が何を出来るのか挑戦してみたい気持ちと自分の経験を踏まえて何か力になれることがあるのではないかと考えて応募した。

今後の抱負・任期後の目標

自分自身の学び、経験をもっと増やし、地域の方と一緒に地域に合ったコトを実現していきたい。

また、廃校を滞在できる施設として活用できるように、様々な連携を強化し、地域の方ももちろん、島内外の多くの人に足を運んでもらう施設にしたい。

任期後は、地域おこし協力隊での活動を軸に、任期後も地域に残って活動を続けていきたい。

活動内容

●地域コミュニティ活動

老人会会員であるため、老人会定例会をはじめ、老人会主催のゲートボール大会などの活動に参加して地域住民との交流を深めている。



●廃校活用に向けた住民説明会

2013年3月に閉校となった小学校の利活用に取り組んでいる。地域の方にとって思い入れがある施設なので地域住民の声に耳を傾けつつも、町と調整しながら企画を進めている。



●学びを深める研修への参加

地域外の研修へ参加することで、まずは自分で学び、地域に合ったコト・モノに取り組める体制を作る。出会った人を通じて、八丈島を知ってもらおうきっかけを作る。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) ha130@town.hachijo.tokyo.jp

(電話番号) 04996-2-1120 (八丈町企画財政課)

(八丈町企画財政課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(facebook) <https://www.facebook.com/8okoshi>

基本情報



【年齢】
27歳
【出身地】
新潟県上越市
【転出元】
東京都中野区
【前職】
学生支援団体職員
【活動時期】
R2.9～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

学生時代、中国の少数民族の文化を専門に学び、文化が薄れゆく中国の村づくりを手伝いたいと思っていましたが、日本の農村にも共通の課題を感じ、地域づくりを手伝うために何かできないかと考えていました。地域づくりに関わる仕事を探していた際に地域おこし協力隊という制度があることを知り、インターネットで情報収集を行っていたところ、現在の活動地域である矢田の募集を発見。地域の思いに共感し応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

今後の抱負は、退任まであと1年を切った中で地域の皆さん自身の中に「この地域への愛着」をたくさん育てることです。地域の魅力を再認識した地域の皆さんが、今度は住民発信で何かアクションを起こすことができれば嬉しいです。また、任期後の目標は現在の地域との関わりを続けながら、これまでの経験を活かした地域づくり活動やそのサポート活動を様々な地域で行っていきたいと考えています。

活動内容

●旧商店を活用した集いの場づくり

かつて商店として使われていた建物を活用し、地域行事やサークル活動を支援したり、様々な教室を開催したり、地域の人たちが集う場を作るための活動に取り組んでいます。令和4年11月には、「矢田マルシェ」も開催。地域外の人たちとの交流を生み出しています。



●亮布（リャンプー）を使った祭り衣装プロジェクト

学生時代に学んだ中国民族の伝統的な布である「亮布」を使い、地域の祭り衣装を作成しました。作成に関しては、布を染めるところから始め、裁断・縫製まで地域の多くの人たちに関わってもらうことで、伝統あるお祭りを未来へ残したいという祈りの気持ちを込めています。



●活動地域のPR

様々な魅力がある地域のことを多くの人に知ってもらうため、市内・県内で行われる様々なイベントにも積極的に参加し、PR活動を行っています。また、地域の人たちにこそ魅力を再発見してもらいたいと考え、自分が見つけた地域の魅力を全戸配布のお便りなどで発信しています。



連絡先

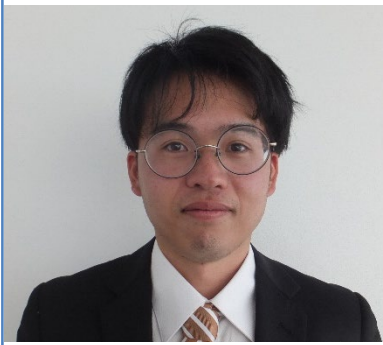
【メディア等の取材連絡先】

柏崎市市民活動支援課 活動推進係
(メールアドレス) shien@kashiwazaki.lg.jp (電話番号) 0257-43-9127

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

<https://m.facebook.com/kashiwazaki.kyoryokutai/>

基本情報



【年齢】
29歳
【出身地】
群馬県太田市
【転出元】
新潟県新潟市
【前職】
システムエンジニア
【活動時期】
R4.2～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

前職のシステムエンジニアでは、日々パソコンでの仕事であったため、自然や人と触れ合いながら働きたく、地域おこし協力隊を選んだ。その中でも、新発田市は山も海もあり、歴史もある町だったので、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期後にも同じような仕事ができるよう、飲食や動画作成等、幅広く活動をし、自分の方向性を見極めていきたい。そのためにも、参考となる協力隊の先輩や地域の方と協力して活動をしていきたい。

活動内容

●地域づくり支援センターの助成金対応

地域づくり支援センター（中間支援組織）では、3つの助成金（地域活性化事業、新型コロナ支援、講師費用助成事業）があり、それを運用する。



●地域のお悩み解決

地域づきの地域おこし協力隊や集落支援員が駐在していない地域での要望や課題のヒアリングや、解決を実施する。



農福連携で田植えを行っている団体のイベントに参加している様子

●地域おこし協力隊、地域づくり支援センターの情報発信

SNSへの記事投稿や映像撮影、動画作成、地域づくり支援センターのHPの更新をし、活動内容やイベントの告知、魅力発信をする。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) machizukuri@city.shibata.lg.jp
(電話番号) 0254-22-3030(内線1652)

【活動の様子を発信しているSNS（地域づくり支援センターHP）】  ログなど  協力隊Facebook 

基本情報



【年齢】
36歳
【出身地】
新潟県新潟市
【転出元】
新潟県新潟市
【前職】
調理職
【活動時期】
R1.11～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

前職で国内外・県内外にて調理の仕事をしており、さまざまな文化に触れるなか、日本の食文化や生まれ育った新潟の食の豊かさに改めて気づき、お米や野菜の生い立ちを直に知りたいと思いはじめました。四季のはっきりしている自然環境豊かな地域で、季節の移ろいと共にある農・食・暮らしを楽しみたいと思い、住んだことのない新潟県十日町市を志望しました。

今後の抱負・任期後の目標

それぞれその土地のものや身近にあるものが身心の一番のご馳走であることを実感した3年間でした。自然のなかに身を置きながら、引き続き農・食・自然の恵みを生かした料理人の仕事をしながらこの地域で暮らしていこうと思います。

活動内容

みんなの田んぼ・畑

地域の田畑にて、田植え・稲刈り・収穫したものをみんなで食す活動。地域の資源で子どもから大人まで遊びます。収穫したお米や野菜は、収穫祭にて地域のみなさんで食べたり、販売して活動費に充てたりします。



地域の素材で地域づくり

地域にある旬の野菜で餃子づくりや、新潟の郷土料理・笹団子作り、しめ縄づくりなどを、地域の食材や稲わらなどの素材で作ります。



釜川大地のお弁当「釜弁」

地域で余った野菜や出荷できない野菜を提供していただき、加工して地域にお返りするコミュニティ活動。これをきっかけに、食材の提供や、お弁当を取りに来れない人の分を、近隣の人が届けるなどの思いやりの輪が広がっています。毎月1回、第3水曜日開催

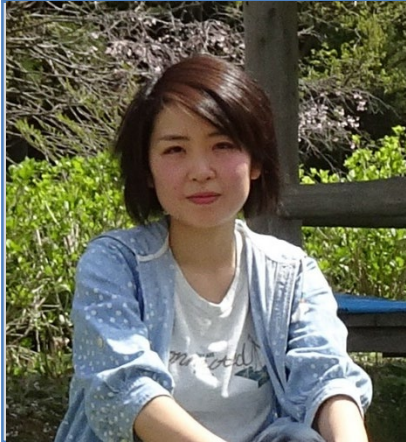


連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) t-kikaku@city.tokamachi.lg.jp
(電話番号) 025-757-3693 (職場・その他(新潟県十日町市企画政策課))

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram kuramata_nakasato

基本情報



【年齢】
31歳
【出身地】
神奈川県相模原市
【転出元】
神奈川県相模原市
【前職】
アルバイト
【活動時期】
R2.3~
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

地元を離れ新しい環境で働きたいと思ったため。住居のサポートなどがあるため。協力隊の活動が楽しそうだったため。

今後の抱負・任期後の目標

残りの任期が限られてきたが、限られた中でも集落内外の交流を生むイベントをどんどん開催していきたい。任期後も集落と中学生や地元若者グループとの繋がりが継続されていくようにできたら良い。任期後の住居や仕事は現在探しております。

活動内容

●集落サロンの開催

月に1回集落住民（主に高齢者女性）が集まるサロンを企画している。内容は地域の食材を使った料理作りや、育てているハーブを使った小物作りなど。集落内外の交流も取り入れている。



●地域の人・モノを活かしたイベント企画

- ・山間部に住む子どもたち向けのイベント
- ・赤ちゃん和妈妈向けのイベント
- ・ブラジル人移住者によるブラジル料理作り
- ・チューリップで染め物
- ・笑顔の高齢者写真コンテスト 等

子どもの遊び・体験が大集合！

11月3日(木)
13:00~16:00
にご楽・胎内
(屋内・外)
雨天決行

山あいの
ちいさな
秋まつり

ハロウィンっぽいアイテムを
身に付けて来てくれた子どもには
良いことがあるかも！

●パン作りサークルの主宰

胎内市の食材・商品を使ったパン作りを楽しむサークルを立ち上げ。コロナ禍でなかなか開催できないが、毎回おいしいパン作りと胎内市に住む人々との交流を楽しんでいる。



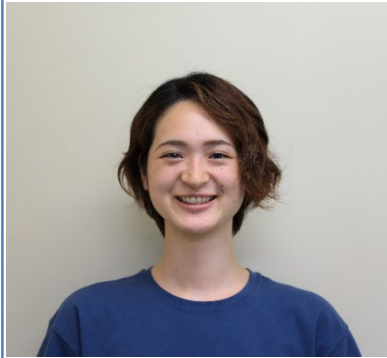
連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(電話番号) 0254-43-6111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
胎内市地域おこし協力隊のインスタグラム (右)
フェイスブック (左)



基本情報



【年齢】
25歳
【出身地】
埼玉県川越市
【転出元】
東京都板橋区
【前職】
MD事業
【活動時期】
R4.7~
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

前職を退職し、以前から田舎暮らしへのあこがれがあったこと、人の暮らしに密着し手助けになるような仕事があったことが協力隊を検討することに繋がりました。仕事の内容だけを考えるのではなく、今後のライフスタイルという大きな枠で考えたことが大きなきっかけになりました。

今後の抱負・任期後の目標

移住者や関係人口を増やしていくことが目標です。今住んでいる秋山郷、津南町が今後も快適に過ごせる場所であるよう、魅力の発信活動に力を入れ、町内外ともに津南町の魅力を認識していただけるよう尽力します。

活動内容

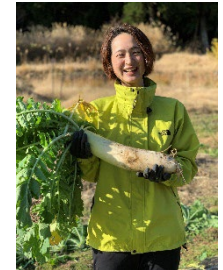
●地域活動

地域の方々のおうちにお邪魔し、お茶飲みをしています。交流を深め、土地の歴史や慣習、過去のお祭りの話や食事の話を聞くことで、単純な歴史の継承というだけでなく、今後の目標や活力にしてもらえたらと思っています。地域の草刈りにも参加し、共同作業を通して交流をしています。



●農作業の手伝い、野菜作り

津南町内、特に秋山郷ではほぼ全員が野菜やお米を作っています。手が足りなかったり、補助が必要な作業があったりする場合に、手伝う活動をしています。自分でも野菜作りをすることで、共通の話題が生まれ地域に入る、ということにつながっていると感じています。



●移住ツアーの開催

地域の存続には移住者の存在が不可欠なため、移住のきっかけになるよう、開催する予定です。また、地域住民にとっても「移住者の受け入れ」ということについて考えたり体感したりするきっかけになればと考えています。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://www.instagram.com/tsunanachi/>

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
山梨県南アルプス市
【転出元】
東京都杉並区
【前 職】
会社員
【活動時期】
R2.10～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

サラリーマンとして数字や成果を追う日々違和感を感じていたときにコロナが発生。世の中にいろんな不安が蔓延し、生活に苦しむ人が多くでてきた状況のなかで、これからは暮らしに近い領域で、社会貢献に取り組みたいと考えようになりました。そんなタイミングで、人のご縁に恵まれて、富士吉田市の地域おこし協力隊になりました。

今後の抱負・任期後の目標

「人のつながりで社会課題と向き合う」というコンセプトでソーシャル・ビジネスに多く取り組んでいきたいです。任期中に会社を設立し、共生社会の実現に向かって、福祉とまちづくりという領域で、富士吉田市を拠点に活動していきたいと考えています。

活動内容

●高齢者生活支援活動〈じばサポ〉

福祉制度だけではまかなえない高齢者の生活の困りごとを、有償ボランティアとして請け負う活動です。地域包括支援センターや市内の福祉関係者らと連携し、困りごとの解決を通して高齢者の孤立を解消し、地域全体でのケアの質向上に寄与したいと考えています。



●高齢者の日常を発信するインスタマガジン〈しわじわ〉

高齢者との日常を発信することで、自分のおじいちゃん・おばあちゃんや、地域の高齢者を身近に感じてもらいたいと考えています。今後の事業の展開として、紙媒体での出版や、展示会などを思案しています。



●まちのサードプレイス事業〈ソーシャルハウス宝島〉

共生社会の実現を目指した場作り事業です。主に社会的に孤立しやすい福祉対象者や、社会的マイノリティと呼ばれる方の居場所・活躍の場として機能することが目的。人のつながりをつくり、地域住民の互助を推進していきたいと考えています。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
facebook :<https://www.facebook.com/uedajun729>
Twitter :<https://twitter.com/uejun729>
Instagram :<https://www.instagram.com/siwa.jiwa>

基本情報



【年齢】
39歳
【出身地】
東京都三鷹市
【転出元】
長野県諏訪市
【前職】
総合スポーツクラブイン
ストラクター
【活動時期】
R2.4~
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

諏訪市には祖父母の家があり、幼少期からゆかりのある場所でした。その祖父母の家を拠点に、いままでの経験を活かし諏訪市を活性化するお手伝いが出来ないかと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期後の起業を目標に、まずは諏訪を知り、すわっチャオを拠点に市民の方々との関係を深め、次に市民の方々が求めるものに沿った起業のありかたを模索していきたいと思っています。
現在、筋膜リリースの施術研修に行かせていただき、任期後に自宅で起業準備をしている最中です。

活動内容

●メインミッション

すわっチャオを活用した地域活性化創出のための取組（施設運用管理、SNS利用のプロモーション活動、地域関係者との連携による地域活性化創出活動等）



●その他

高齢者向け体操教室（月4回）
体操教室講師派遣
YouTube/Facebook発信
移住イベント参加など



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) ayaka-tsukanishi@city.suwa.lg.jp
(電話番号) 0266-75-5257 駅前交流テラスすわっチャオ
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Facebook #諏訪市地域おこし協力隊、諏訪市公式YouTubeチャンネル内
諏訪地域の魅力発信番組
「住んでみたら！すわっていいよ！いいら下諏訪！ちおこトーク！」

基本情報



【年齢】
43歳
【出身地】
神奈川県横浜市
【転出元】
神奈川県横浜市
【前職】
デザイン事務所経営
【活動時期】
R2.7~
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

もともと長野県内で宿泊事業に取り組みながら横浜との2拠点生活を送っていました。新型コロナウイルス流行による宿泊事業への影響を機に、より長野県の地域と関われる仕事や、今後のライフスタイルの見つめ直しで応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期後も塩尻を拠点に、自分自身も地域のプレイヤーとして研鑽しながら、地域の課題に取り組む人たちの助けになりたいと考えています。また地域にとどまらない社会動向など大局を見る視点や気づきの機会もつくれるような役割も担っていきたいと考えています。特に高校生起業家の育成や気候変動、まちなかの活性化に関する活動をしていきたいと考えています。

活動内容

●シビック・イノベーション拠点スナバ

社会人向けと高校生向けの起業家育成プログラムなどをはじめ幅広い年代の起業家の伴走に努めています。またスナバのブランディングを見直し、より地域の課題やステークホルダーたちとの関わりを深めています。



●エコモビリティ活用促進事業

Eバイクの利用を中心に、奈良井宿や高ボッチ高原などの既存の観光資源の活用やこれまで観光資源とみなされていなかった史跡をイノベーションをテーマに価値の再発見をする取り組みをしています。



●まちづくり地域活性化

市の第六次総合計画策定に検討委員として参画しています。独自にもまちづくりに関するワークショップを企画し、プレイヤーの育成や地域での関心を高める活動をしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) gakusen.i@sunaba.org (電話番号) 090-7224-7135

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(スナバHP) <https://www.sunaba.org/>
(個人Facebook) <https://www.facebook.com/gakusen.iwasa/>

基本情報



【年齢】
40歳
【出身地】
愛知県知多市
【転出元】
愛知県知多市
【前職】
美術作家の制作アシスタント
【活動時期】
R3.7～（2年目）

協力隊に応募したきっかけ

日本仕事百貨に掲載されている求人情報を見て、地域の人の「やりたい」に寄り添いながら、自分の「やりたい」を始めることができるのではないかと考え、メンバーやスタッフとのコミュニケーションの中で自分もやりたいことに向き合いながらこれからの人生で大切にしていきたいことを少しずつ始めていきたいと思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

シビック・イノベーション拠点スナバの運営に携わりながら、本年度はアーティストを招聘したワークショップをスナバや塩尻市内で実施し、今後レジデンスを受け入れる際の地域とアーティストのタッチポイントとしてワークショップが機能するような体制を構築していきたいと考えています。そして、任期後の活動にも繋げていきたいと考えています。

活動内容

●シビック・イノベーション拠点スナバの運営

オープニング作業や内覧者対応など通常の施設運営やアクセラレータープログラムの開催などの起業家支援業務に加え、メンバー向けプログラムとしてアート関連のワークショップを開催。



●Workshop Terminal

複数の分野のアーティストと連携して企画するワークショップの実施。

地域課題として感じた芸術に触れる機会の少なさに対する打ち手として、表現することを通じて直に芸術文化に触れられるプログラムを企画し、地域の調査や学校や保育施設との連携体制の構築などにも注力し実施する。塩尻市や近隣市町村の地域性や特色をワークショップに取り入れ、地域とアーティスト、参加者の有機的な繋がりを生み出せるようなテーマや素材を取り入れる。

【仲のワークショップ】
5月30日（月）11:00-13:00
※参加希望の方、コメントで返信ください。（先着5名）
ごんちをば。
これからいるいるとワークショップを開催していきたいと考えているスナバスタッフ・はずちゃんこと蓮沼です。... もっと見る



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）naoko.h@sunaba.org
（電話番号）090-4217-7513
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

基本情報



【年齢】
50歳
【出身地】
兵庫県明石市
【転出先】
大阪府大阪市
【前職】
会計事務所勤務
【活動時期】
R3.7～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

山に囲まれた自然豊かな場所に居を移して生活したい、社会貢献活動に関われるような働き方にシフトしたいという想いから地方移住に関心をもつようになり、長野県を中心に移住先を探していました。日本仕事百貨の募集記事を見て、先進的な関係人口創出の取り組みや、シビック・イノベーション拠点「スナバ」のような多様な人と出会えるコミュニティがある塩尻という町に興味をもち、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

ポータルサイトの運営を通じて、地域内で活動するプレイヤーの情報を収集・発信するとともに、地域外の方々が塩尻と関わるきっかけとなる窓口の役割を果たすことで、地域と継続的に繋がる関係人口を増やしていきたいです。

任期終了後の具体的な活動についてはまだ未定ですが、着任して1年たち、人との繋がりもでき、地域への愛着も湧いてきています。引き続き、空き家活用やワインや農産物の振興など、地域活性に繋がる活動に関わっていきたいと思っています。

活動内容

●関係人口創出事業

副業などで関わる首都圏のプロ人材と協働して地域課題を解決する関係人口創出事業の企画・運営に携わっています。具体的には、地域課題の発掘とプログラムの企画・設計、関係人口コミュニティ「塩尻CxO Lab」の運営、副業人材の募集・採用とコーディネート、各種イベントや座談会の開催などを行っています。



●関係人口ポータルサイト「のりしお」の運営

noteの地方公共団体支援プログラム活用し、関係人口向けポータルサイトを立ち上げ、運営を行っています。市内外の誰でも参加できるイベントやプロジェクトの情報を、塩尻を「まなぶ」、塩尻に「かかわる」、塩尻で「はたらく」の3カテゴリーに分けて発信しています。



●空き家活用プロジェクトへの参画

地域のNPO法人が主催する、塩尻市街地の空き家利活用のプロジェクトに参画中。片付けイベントなどを通じて、地域活動や空き家問題に関心がある首都圏の方々を呼び込み、継続的な関わりを創出する活動を行っています。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

<https://shiojiri-city.note.jp/>

<https://twitter.com/norishiojiri>

基本情報



【年齢】
30歳
【出身地】
山梨県山梨市
【転出元】
東京都荒川区
【前職】
大手人材サービス
【活動時期】
R4.2～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

塩尻に住む友人からシビック・イノベーション拠点「スナバ」での協力隊求人を紹介してもらい、スナバのビジョンや活動、スタッフの想いに魅かれて応募しました。
元々地方での仕事に就きたいと思っていた一方で、どの分野でどんな活動をするかが絞れていなかったため、様々なバックグラウンドや活動をされている方々と出会えるスナバに魅力を感じて応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

任期後についてはまだ具体的な活動を決められていませんが、人のつながりやまちでの生活など、塩尻での暮らしがとても気に入っています。
人生において大事にしている「人々の可能性を広げるサポートがしたい」という想いを軸に据え、まずは今の活動がより発展するように取り組みたいです。また、活動を通して任期後に自分がどうありたいか・何をしたいかを考えていきたいと思っています。

活動内容

●シビック・イノベーション拠点「スナバ」の運営

スナバの利用者がシビック・イノベーションをより生み出しやすい環境を創出・維持するため、施設の運営、起業家などのメンバー（利用者）への伴走、イベントの立案・運営を行っています。メンバーの事業がより加速するためのプログラムの企画・運営なども実施しています。



●「スナバ」の法人連携促進

スナバが利用者だけでなくより広くまちとつながるため、塩尻市内を中心とした法人との連携を進めています。
具体的には、課題を持った法人に対しスナバが持つリソースを活用した連携を模索し、法人とやりとりをする中でプランの提案などを行っています。



●地域企業の人事業務支援

前職での経験を活かし、地域企業の人事にまつわる課題のサポートを行っています。塩尻市や周辺エリアの中小企業を中心にヒアリングを行い、課題の特定と解決策の提案、伴走支援を実施しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) masumi.s@sunaba.org
(電話番号) 090-4134-1825

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://www.facebook.com/Masumi.Shimamoto/>

基本情報



【年齢】
32歳
【出身地】
静岡県 沼津市
【転出元】
静岡県 静岡市
【前職】
会社員
【活動時期】
R4.10～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

春野町に移住を決めてから、地域の方と親睦を深めるにつれて、こんなに良い町なのに何故過疎化していったのか、何か出来ないのだろうか？という気持ちになりました。

移住してからやりたいことと併せて、地域を発信して手助けできれば良いなと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域住民の方々とコラボして、企画、実行、情報発信、雇用の創出までできればいいと考えています。ゲストハウスの製作や生活観光の視点から10年後、20年後の地域の姿を想像して、地域が続いていくような活動をしていきたいです。

活動内容

●地域取材

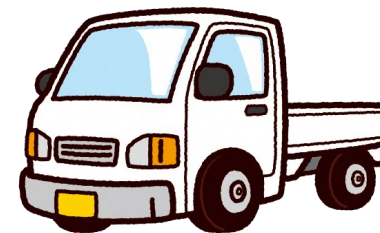
写真と画像編集を駆使して、地域の産業から個人の活動や暮らしを発信。まずは地域の名前を若い世代に向けて認知してもらうことを主体としている。

良いことだけではなく、町の問題点も調査してまとめていきたい。また、地域の風景を撮りためて写真集としての展示も検討中。



●軽トラを使って活動

軽トラの荷台に天竜木材をつかった小屋を作製し、地元素材を使った料理の地域への提供やイベント出店を計画。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) hr-kyodo@city.hamamatsu.shizuoka.jp (協働Cアドレス)
(電話番号) 053-983-0001 (協働C電話番号)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram <https://www.instagram.com/tas.lovesoulcoffee>



基本情報



【年齢】
32歳
【出身地】
静岡県浜松市
【転出元】
東京都練馬区
【前職】
フリーランス
【活動時期】
R4.4~
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

大学進学をきっかけに地元を離れ10年ほど東京で過ごし、独立という夢を叶えました。
次に何をしたいか考えたときに、コロナや過疎化の影響を受けている地元で貢献したいという思いが募り応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期中は地域団体の活動や情報を発信し続けていきたいと思っています。
任期後は地域資源等を生かした事業を立ち上げ、雇用を創出していきたいと考えております。

活動内容

●地域支援活動

地域で人力を必要としている方の農作業支援や、地域団体が行うイベントの企画・広報紙編集の参画と運営支援。



●不耕作地活用

不耕作地をお借りして自分達で耕作し直し、地域の方と交流しながら農作物の栽培と生産物を活用した商品開発の取組み。



●地域広報イベント出店

各地で実施されているイベントへ出店し、地域の紹介や、地域特産品の販売の実施。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) is-kyodo@city.hamamatsu.shizuoka.jp
(電話番号) 053-542-1112

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
・山里いきいき隊隊員共通ブログ ・Twitter(個人アカウント)
<https://yamaikitai.hamazo.tv/> <https://twitter.com/nishidafree>



INASAYAMAII

基本情報



【年齢】
20歳
【出身地】
神奈川県 横浜市
【転出元】
神奈川県 横浜市
【前職】
現役大学生
【活動時期】
R4.6~

協力隊に応募したきっかけ

自分を変えたい！世界一面白い人生を送りたい！と強く思う裏腹、大学一年生の時はオンライン授業で家に閉じ込められる日々。パソコンで大学行けるなら、いっそのこと自分から社会に飛び出そう！と、三重県尾鷲市の企業さんに住み込みインターンとして飛び込ませていただく。ここにいた方が誰かの役に立てるかもしれない。と、尾鷲に残ることを決意。その手段として地域おこし協力隊になった。

今後の抱負・任期後の目標

常に無我夢中になりやりたいことをやって生きる。自分の人生をとてつもなく面白い映画にすることが目標。だから協力隊で今やりたいことはきちんと形にしたい。だから任期が終わってしまったら、自分で尾鷲に残れる手段を考える。尾鷲で一区切りついたら、私はまた別のところで仕事をしたい。それは、日本の自然が大好きだから。もっと他の場所にも素晴らしい自然があるはず！大好きな場所をたくさん作りたいし、日向風花の功績を日本中に残したい。

活動内容

●多世代の居場所 立ち上げ

着任している尾鷲市向井地区に子供からじいじ、ばあばまでみんなが来られる場所を作ります！今はその立ち上げに奮闘しています。



●おわせむかい農園さんお手伝い

尾鷲市向井地区で新たにはじまった挑戦が、おわせむかい農園さんです。元々火力発電所関連の仕事をしていて、そこから新たに体験農園を始められました。体験農園にシフトするためのお手伝いをしています。



●地元の学校でキャリア教育

尾鷲市では、私のような存在が稀有らしく、中学生などに私のやっていることや尾鷲にきた経緯をお話させていただいております。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
尾鷲市政策調整課
(メールアドレス) hito@city.owase.lg.jp
(電話番号) 0597-23-8116

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Facebook : <https://www.facebook.com/fuka.hinata/>

基本情報



【年齢】
36歳
【出身地】
群馬県東吾妻町
【転出元】
神奈川県横浜市
【前職】
食品メーカー
【活動時期】
R4.3～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

地方で利用されていない資源を有効活用し、新たなビジネスを創造したいと思ったため。

長浜市を選んだ理由は、この場所から東にも西にも行きやすく、将来ビジネスをする上で横の広がりがあり、ポテンシャルを秘めている地域だと思ったため。

今後の抱負・任期後の目標

【今後の抱負】

- ①多くの学生に地域を知ってもらおう。
- ②学生だけでなく、企業さんにも参画してもらい、学生と企業がマッチング出来るような場を作りたい。
- ③今まで関わった学生が、就職しても地域に関わってもらえるように、何かしらのつながりを持つ。

【任期後の目標】

現在お借りしている空き家をリノベーションし、コミュニティスペースとして誰でも利用できるようにしたい。

活動内容

●空き家の調査

活動地区にある空き家情報を集め、出てきた空き家を利用出来る・出来ないを調査しています。空き家情報を集めるため、情報発信や地区の活動などにも積極的に参加し、様々な方とコミュニケーションを取ることを意識しています。



●空き家の利活用方法の検討

利用できる空き家をどのように活用していくか検討しています。まずは私が住んでいる空き家をリノベーションし、大学生サークルや企業利用を想定しています。また、地域の方のコミュニティスペースとしての利用も進めていきたいと考えています。



●大学生との交流

都市部の大学生を地区に呼び込み、地域活性化と一緒に取り組んでいます。今年度は東京都の3大学、滋賀県の1大学が地区に来て、各々のワークショップ・フィールドワークを行っています。来年度はさらに多くの大学を呼び込み、大学の枠を超えたサークルを作りたいとも考えています。

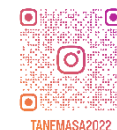


連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) katsuyaku@city.nagahama.lg.jp (長浜市市民活躍課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) アカウント名: tanemasa2022



TANEMASA2022

基本情報



【年齢】
36歳
【出身地】
京都府 京都市
【転出元】
京都府 京丹後市
【前職】
公務員（消防士）
【活動時期】
R1.11.11～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

妻の実家が京丹後市にあり、京丹後市を知ったことがきっかけです。自然、食、人の素晴らしさに魅了されました。子どもが生まれた頃、「子育てをするなら丹後の自然の中で育てたい。」と思うようになり、移住を考えました。前職は消防士でしたが、休みを利用して頻りに丹後を訪れていました。丹後の自然がとにかく大好きで、丹後で暮らせるなら、消防を辞めても惜しくはないと考えていたので、丹後のまちに貢献できる『協力隊』の仕事を知り、是非やりたい！と応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

ミッション開始から、観光や自然環境保護の活動を行ってきました。残る2年の任期では、現在行っているビーチクリーン活動の規模を拡大すること。また環境活動自体を観光、教育、研修として受け入れる体制を作っていきます。また行政と連携し、未来の子どもたちに丹後の自然環境を残していくため、最終処分場の体制についても検討していきます。また最終年度、任期後の展望は、全国から環境活動や、地域活性、フィールドワークで丹後を訪れる方が集まったり、宿泊できる場所を作っていきたいと考えています。都市と丹後がつながり、また様々な人が来る場所で、地元の子どもたちが刺激を受けるようなコミュニティスペースを作ろうと考えています。

活動内容

●Eバイクを活用した観光

丹後の大自然やまちなみ、人の雰囲気やダイレクトに感じることでできる手段としてEバイクのレンタルサイクルを実施しています。Eバイクは配送・回収できるサービスを行っており、Eバイクを所有していない宿や駅であっても、丹後を訪れる方がレンタルサイクルを利用できるように体制をつくりました。



●ビーチクリーン活動

自然が豊かな丹後も、年間を通じて大量の海ゴミが漂着します。今後、海ゴミは30年で2, 3倍に増えることが予測されています。未来を生きることもために豊かな自然を残すため、定期的にビーチクリーンを実施しています。SNSで参加を呼びかけ、毎月50名以上が集まるイベントになっています。



●Precious Plastic

オランダで生まれたプラスチックリサイクルプロジェクトを行っています。目の前で体験しながらプラスチックのリサイクルやゴミについて学べる研修を作成し、現在、地元教育機関への講演や体験の提供をしており、また他府県からの企業や団体からの視察、研修を受け入れています。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(丹後エクスパリエンス) <https://tango-exp.com>
(Instagram) <https://www.instagram.com/yoisho8>

基本情報



【年 齢】
30歳
【出身地】
京都府京都市
【転出元】
京都府京都市
【前 職】
会社員（ゲストハウス）
【活動時期】
R3.9～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

東京で働いていた時、心身ともに疲れきっていた時期にサウナに出会った。サウナに入ると日々の疲れがふき飛び、悩みを忘れることができる。この「サウナ体験」に魅力を感じ、多くの人に体験して欲しいと思うようになった。そうして、長野県のアウトドア施設に就職し、経験を積んだ後、京丹後市の地域おこし協力隊の募集があり、京丹後市にやってきた。

今後の抱負・任期後の目標

地方では少子高齢化・人口減少が進んでいるが、人口増加は難しくても交流人口の増加は可能だと考えている。サウナで市外から観光客を呼び込むことができるはず。サウナ小屋を作り、地域の方々と観光客が交わる場づくりに取り組みたい。昔ながらの銭湯のように何気ない会話を楽しみながら、心も温まる空間をイメージしている。また、観光客にはサウナだけでなく、地域の方々が作った野菜や果物を食べていただく機会を提供するなど、市内の食の魅力発信にもつなげていきたい。

活動内容

テントサウナの無料体験会の実施

京丹後市でサウナ事業を展開するにあたり、予想以上にアウトドアサウナの認知度が低いと感じ、無料テントサウナ体験会を開催し、アウトドアサウナの魅力の普及と周知に努めた。



●食とサウナのイベントの実施

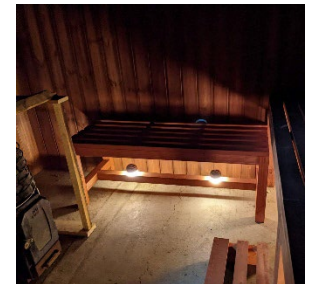
キッチンカーでスパイスカレーの販売を行っている会社と京丹後市のキムチを作っている事業者とコラボしてスパイスカレーとサウナのイベントを実施。京阪神からの利用客もあり、交流の場につながった。



●空き古民家を活用したサウナ施設

空き家となっている古民家の一部を改築し本格フィンランド式サウナ施設が完成予定。

今後はこの施設を拠点に市内外に向けたイベントや地域の人に体験していただく取り組みを行い、観光客と地域が交流する場づくりに繋げたい。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) mineyama-shimin@city.kyotango.lg.jp
(電話番号) 0772-69-0711
(職場) 京丹後市役所 市長公室 峰山市民局
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://lit.link/musugokasauna>

基本情報



【年齢】
46歳
【出身地】
京都府京都市
【転出元】
京都府京都市
【前職】
会社員（野菜の流通業）
【活動時期】
R3.9～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

都会から離れたところで暮らしていくことに興味を持ち、訪れた京丹後市に魅力を感じ移住を考えていたところ、移住支援団体を通じ地域おこし協力隊の募集について教えていただいたことがきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

地域の方々が楽しく集える町になるよう、自分に何ができるのか、じっくり考えていきたいと思えます。今日まで建築と調理に従事してきましたので、今後は魅力ある場所に積極的に訪問し、スクラップ&ビルドを繰り返しながら、より心地よい場所づくり模索し、任期後は民泊・食堂を始めたいと考えています。

活動内容

●地域づくりの推進と地域の活性化

地域コミュニティの再生を目的に、地域で開催されるイベントや地域活動等に積極的に参加することを通じ、地域づくりの推進や地域の活性化に取り組んでいる。



●地域住民との交流

任期終了後を見据え、任期中の「活動」「起業」の両立を目標に、地域の食材や伝統料理を深く知る事と、地域の方々との交流を深めることを重視した活動を行っている。



●都市農村交流の推進

現在、地域と大学生との交流活動にかかわっており、今後も積極的に地域と都市部を繋ぐことにより、都市から農村への交流人口を増やしていきたい。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) yasaka-shimin@city.kyotango.lg.jp
(電話番号) 0772-69-0715
(職場) 京丹後市役所 市長公室 弥栄市民局

基本情報



【年齢】
32歳
【出身地】
兵庫県尼崎市
【転出元】
兵庫県尼崎市
【前職】
JICA隊員、高校教員
【活動時期】
R3.7～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

JICA青年海外協力隊員時代、派遣先のブラジルで日系社会の抱える問題と日本の地方が抱える問題の類似性を感じたという経験から、帰国後は地方の課題解決に取り組みたいと思い、応募した。募集情報は知人を通じて収集。

今後の抱負・任期後の目標

連携先である町内団体「能勢なつかしさ推進協議会」とともに様々なイベントや企画を運営していくことで、地域コミュニティが移住者や地元の方、来訪者との間で強い関係を構築できるようにしていきたい。その大きな柱となるのが「里山技塾」の運営であり、任期後もこの運営を担っていきたい。

活動内容

●里山技塾の運営

能勢なつかしさ推進協議会が母体となって運営している農業塾。里山の資源を副業にできる「ワザ」を身につけるという目的で、能勢の里山に関わるワザを講座化（講師は地元住民）していく。現在は通年講座「西田流栗接木剪定術」を運営。今後は道の駅との連携講座や山の管理に関する講座を実施予定。



●能勢なつかしさ推進協議会との連携

町内の農家、店舗や学校、行政などで構成された団体で、さまざまな地域課題に取り組む。先述の里山技塾だけでなく、町民参加型のイベントや直売所との連携を図った事業などを随時企画。この秋は直売所に自動栗むき機械を試験導入し、来客数の向上とハネ品の栗の活用をおこなった。



●町内の情報収集・聞き取り取材

里山技塾の受講生が卒業後に就農できるため、また援農の仕組みづくりのために町内の農家や店舗・職人の方々に聞き取りを行う。また、そういった町の情報を発信・アーカイブ化するためSNSや能勢町公式サイト「のせむすび」にて記事を随時投稿



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) seisaku@town.nose.lg.jp (電話番号) 072-734-3036

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

公式サイト「のせむすび」 <https://nose-circulation.com>

地域おこし協力隊アカウント Facebook、Instagram([nose.chiikiokoshi](https://www.instagram.com/nose.chiikiokoshi))
里山技塾アカウント Facebook、Instagram([satoyama_artcollege](https://www.instagram.com/satoyama_artcollege))

基本情報



【年齢】
34歳
【出身地】
大阪府富田林市
【転出元】
大阪府大阪市
【前職】
会社員
【活動時期】
R4.5～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

東京への転職の話や結婚を気に地方移住を考え出し、淡路島での地域課題解決型インターンに参加。

淡路島の中で知り合った人々は、自分のやりたい事や夢を持ってイキイキと暮らしている方ばかりで、企画を通して人の役に立てる、様々な生き方や価値観を持つ方と積極的に交流し、自分自身をさらに成長させられると思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

3年間でたくさんの方と知り合い、知り合った方々と一緒に楽しく淡路島の地域活性化につながる仕事がしたい、シマトワークスのみなさんと企画の仕事がしたいと考えています。

もうひとつは、心や体に良い効果をもたらすハーブやアロマセラピーについてもっと知識を深め、自分で商品を作りたい。例えば、淡路島産のハーブを使ったお酒などを考えています。

活動内容

●淡路島ゼロイチコンソーシアムの推進

持続可能性の高い社会を目指す島外の企業が、洲本市で新たな事業を起こす支援をする産官学金連携の組織です。明るい未来を実現する事業を推進し、若者が地方で働くことに“憧れ”を抱くきっかけを作ることを目指して活動しています。



●域学連携PBLプログラムの設計

コンソーシアム参画企業と連携して、大学が地域でフィールドワークを行う際のPBL (課題解決型学習) プログラムの設計や実施を行っています。



●古民家改修拠点作り

生活や地域活動の拠点にするため、築50年の古い一軒家を契約しました。

まだまだ住める状況ではありませんが、少しずつ時間をかけて改修を進めています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) kikaku@city.sumoto.lg.jp

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(淡路島ゼロイチコンソーシアム) <https://workation.life/>

基本情報



【年齢】
31歳
【出身地】
新潟県新潟市
【転出元】
東京都東村山市
【前職】
会社員
【活動時期】
R3.4~
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

娘が生まれたことをきっかけに、地方移住を含め今後の暮らし方を見直す機会が多くなりました。また、「自分のやりたいこと」×「地域に求められていること」に目を向けた仕事で起業したいという想いがあり、起業の可能性の向上及びリスク軽減が図れること、協力隊の仕事を通じて地域に対する想いを醸成したいと考えたことから、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

「竹原空き家リノベーションプロジェクト」にて改修している地域交流拠点を始め、地域に“成果”を残したいと考えています。

また、地域と関わる人を増やす仕掛けを作っていくとともに、隊員が地域で自活し稼げるような事例を作りたいと考えています。

活動内容

● 集落内の空き家を活用した地域交流拠点の再生

集落の集会所、簡易宿泊施設を備える拠点づくりとして「竹原空き家リノベーションプロジェクト」を発足し、地域の住民や大学の生徒たちと一緒に地道に古民家の改修を行い、集落内の空き家を活用した地域交流拠点の再生を行っています。



● 地図インフラ構築

竹原集落内及び集落に至るまでの道路約1キロの360度写真の撮影を実施し、GPS情報の調整を行い集落内や観光農園内部のGoogleストリートビューを構築。現在インターネット上から竹原集落が閲覧可能になり、オンライン上の地図インフラを実現しました。



● 既存の生業の支援

既存の施設紹介や観光情報を発信するWebメディアの構築、プロモーション活動、イベント企画として、竹原集落公式HPの拡充やSNS運用支援などを行っています。（飲食店、キャンプ場、観光農園）

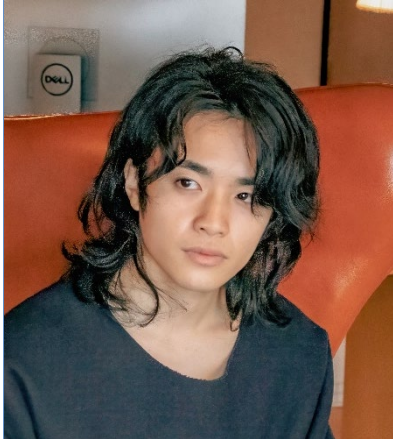


連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) kikaku@city.sumoto.lg.jp

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(洲本市千草竹原HP) <https://tikusatakehara.com/>
(竹原空き家リノベーションプロジェクト)
<https://bankalanka.com/project/takehara-renovation/>

基本情報



【年齢】
26歳
【出身地】
兵庫県姫路市
【転出元】
兵庫県姫路市
【前職】
会社員（デザイン）
【活動時期】
R3.4～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

先に朝来へ移住していた姉の影響もあり、朝来市の地域おこし協力隊に興味を持つ。大学でプロダクトデザインを専攻し、デザインのコンペティションで最優秀を受賞したことも。東京でのデザイン会社勤務を経て、地域おこし協力隊体験会に参加し、朝来市大蔵地域での活動に応募した。

若者の主体的な地域活動への参加を、デザインの手力かで引き出すというミッションを提案し、今までにない新たな取り組みを行っている。

今後の抱負・任期後の目標

地域の空き家を改修し若者が集える「ASAGORAKU(あさごらく)」の開設が最終目標。コワーキングスペースでもあり、ちょっとしたカフェでもあり、デザイン会社として起業した際の事務所機能も兼ねる施設を目指す。

品質はとても良いのに、あまり知られていないという地域の特産物や商品を、ブランディングやマーケティングで「売れる商品」にするような事業をしたい。都市部にすむ友人のデザイナーとも協力し、朝来市を拠点に展開していきたい。

活動内容

●若者を地域イベントに

地域の若手作家や農家と協力し「ひとときマルシェ」という連続イベントを企画した。また、所属する地域でのフリーマーケットも開催、フライヤーのデザインや出店者との調整を通じて、若者の地域参加に貢献した。地域イベントでのDJブース設置は、世代を超えて好評を博した。



大蔵フリーマーケット

●田舎をもっとかっこよく

都会よりも田舎にこそデザインのチカラが必要、という思いから、協力隊の募集ブースをトータルコーディネートする。また、ふるさと納税の返礼品となる市内企業の商品開発に企画の段階から参加、働く忙しい女性に向けた食器兼調理器具「Cosara」の完成に携わった。



JOIN移住協力隊フェア

●ほかの隊員とのコラボ

同じ大蔵地域で活動する北川隊員は年の離れた兄弟のような関係。北川隊員は、獣害として捕獲された鹿を食肉処理し、精肉として販売を行う活動に参加しているが、そのジビエ事業のブランディングを行った。隣接する養父市の協力隊員で、クラフトビールの醸造所開設を目指す活動にも参加する。



北川隊員の鹿肉ブランド

連絡先

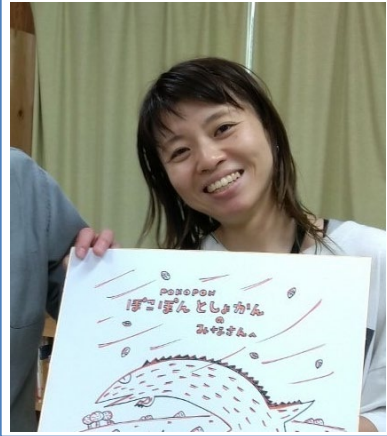
【メディア等の取材連絡先】大蔵地域自治協議会
(メールアドレス) ookura186-3@asago-net.jp
(電話番号) 079-672-5651

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://instagram.com/sho.sakiyama?igshid=YmMyMTA2M2Y=>



SHO.SAKIYAMA

基本情報



【年齢】
35歳
【出身地】
奈良県 香芝市
【転出元】
和歌山県 和歌山市
【前職】
会社員
【活動時期】
R4.3.1~
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

知人が地域おこし協力隊として活躍しており、応募する前から協力隊制度に興味があり、自分も地域で活躍できる人材になりたいと考えていた。

前職の小売業も地域密着型ではあるが、大衆向けの職業であるため、より身近な地域住民のためになる仕事にチャレンジしたいと思い応募。

今後の抱負・任期後の目標

NPO法人サポートきなりで実施している、有償運送の運転手としても活躍できるよう資格を取得。

今後も地域住民のためになるよう、様々な業務に携わっていきたい。

活動内容

●野菜の栽培の手伝い

下北山村で古くから自家野菜として栽培されてきた下北春まなや、村内の学校給食に提供している野菜の栽培の手伝い。

また、村民が育てた野菜を販売する地産地消の朝市にも携わっている。



●図書館の活性化

所属するNPO法人サポートきなりと、村内のボランティアで管理運営されている図書館の運営の手伝い。

前職では本の販売も取り扱っていたため、その知識を活かし来場者が増えるよう活性化に努めたい。

●ハーブ(クロモジ)の研究

村に自生しているハーブ(クロモジ)の研究をしており、今後その植物を使った蒸留水やお茶の販売やワークショップなどを開催したい。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) soumu@vill.shimokitayama.lg.jp
(電話番号) 07468-6-0001

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

基本情報



【年齢】
33歳
【出身地】
奈良県 田原本町
【転出元】
奈良県 田原本町
【前職】
書家
【活動時期】
R4.8～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

赴任先の高野町杖ヶ藪は、高野七不思議の一つです。ここには、様々な歴史文化風習がありました。しかし、過疎化が進み、畑をしに通うものだけで、誰も住む者がおらず、廃村寸前になっていました。

この区の区長とともに、何とか、この村をもう一度もりあげたいと思いました。

パートナーが笛吹きなので、ここなら、大きな音が出せ夜でも吹けるというのも要因です。

今後の抱負・任期後の目標

任期中の活動費は、実に助かりますが限りがあります。3年の間に、観光資源となりうる、村の霊場への里道や村の整備など、住人がいない場合は、自分でするしかありません。やる必要のある場を絞ってコツコツ整備し、この地が観光コースとなるようにしていきたいと思います。

任期後は、観光案内やちょっとした販売物などで、私の収入の一部を、村の存続の費用にあてたいと思います。

活動内容

●PR活動

任務地ゆかりの言葉や、印象を書作を通じアピールしていきます。

YouTubeで、音楽と杖ヶ藪の風景の映像をUPすることも考えています。



里道の整備活動

里道の管轄は町にあるが、その管理は住民にあります。高齢化や、過疎化が進んだ地では、道は荒れ放題となるのは、必然である。少しでも、自分で整備していきたいです。



村の名所看板づくり

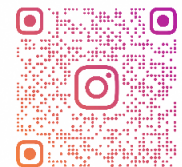
村には、数多く霊場があるが、住む人間が分かれば、いいという状況が進み、この社がなにか、この寺がなにかが、初めて来た人には分からないので、看板を書き設置していく予定です。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) tuegayabu.okoshi@gmail.com
(電話番号) 0736-56-2939

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
facebook・インスタグラム 杖ヶ藪地域おこし



TUEGAYABU

基本情報



【年齢】
62歳
【出身地】
大阪府豊中市
【転出元】
大阪府豊中市
【前職】
グラフィックデザイナー
【活動時期】
R3.11～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

兼ねてより関心のあった紙漉き事業に携わる活動という事が募集要項に挙がっていましたので、応募致しました。また、活動地域にはゆかりがあり、第二の故郷のような印象を持っていますので、その地に根をおろし、振興に役立つ事ができるなら、自分にとっても素晴らしい事だと思いました。

今後の抱負・任期後の目標

高野紙・細川紙を中心とした地域活性化を目指します。自身の紙漉き技術の向上はもとより、研究や実証実験などを重ねて、紙への理解を深め、その伝承に努めます。また、任期後も引き続き、当地域の紙漉き、及び文化・芸術に関わり、新しい価値観を持って世界を見据えた社会貢献ができればと存じます。

活動内容

●花オクラと花オクラ染め

紙漉きに必要なたねの原料であるトロロアオイの花は、これまで廃棄されていましたが、栄養価の高い食品でもあるので、無駄なく、地産品として活用することに取り組んでいます。また、美しい色の染料も取れ、「花オクラ染め」として発展するよう計画しています。



●和紙あかり

域内神社の祭りの広報を兼ね、和紙を小さな行燈に仕立てた「和紙あかり」イベントを行っています。参拝者に祈りと願いの言葉を書いて頂く催事です。和紙とのコラボで、地域に人を呼ぶ催しとなるよう活動しています。



●ほそかわ通信

紙漉きの歴史や、地域の特徴、トピック、おすすめスポットなどを、広く一般に伝える為の小冊子を季刊で発行しています。広報の役割と、地域の人々のコミュニケーションツールとしても役立っています。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
西細川活性化実行委員会公式Facebook
<https://www.facebook.com/nishihosokawa>

基本情報



【年齢】
51歳
【出身地】
京都府京都市
【転出元】
東京都杉並区
【前職】
業界新聞社・出版社社員
等
【活動時期】
R2.2月～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

出版社に勤務していた頃、中山間地振興や地方創生に関する企画を担当し、興味を持っていた。退職を機にネット情報をもとに協力隊の募集情報を集めましたが、当時はほとんどのケースで年齢制限に引っかかり苦戦しました。着任した現在の場所の募集情報については知人に教えてもらいました。ラッキーだったと思います。

今後の抱負・任期後の目標

コロナということもあり、親しくなる機会としての会合やイベントなどが減る中、2年目3年目とやっとさまざまな方に意見をうかがうことができるようになってきました。これまで同様、地区のアイデンティティを大切に活動と一緒にさせていただくとともに、任期後の生活においても、まずはそのスタンスを大切にしていきたいと考えています。

活動内容

西郷工芸の郷のお手伝い

200年近い歴史をもつ牛ノ戸焼、人間国宝のやなせ窯など、古くからの窯元を軸に「工芸の郷」をむらおこしの核として地域活性化をはかる西郷地区において、各種イベントなどのお手伝いをしています。写真は毎年秋に開催される西郷工芸祭りの様子です。



いなば西郷むらづくり協議会のお手伝い

いなば西郷むらづくり協議会では、曳田川の草刈りや掃除、水仙やヒガンバナの花植え、昔話の発掘、西郷の部落史の作成など、多くの事業を行い、地域のアイデンティティの再確認や景観美化に努めており、そのお手伝いをしています。写真はヒガンバナ植えの様子です。



三滝まもり隊のお手伝い

河原町指折りの景勝地でもある三滝渓は、現在、最大の見どころである千丈滝への遊歩道が崩れて立ち入り禁止になっています。地元の有志がそれを惜しみ、林道沿いの草刈りやレストハウス三滝荘の清掃、イベントの開催などで三滝再興への道を探っており、そのお手伝いをしています。写真は大雨のあとの土砂の除去作業です。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) rsrt815@gmail.com
(電話番号) 0858-85-0445

基本情報



【年齢】
33歳
【出身地】
千葉県 流山市
【転出元】
千葉県 流山市
【前職】
総合職
【活動時期】
R3.2～（2年目）

協力隊に応募したきっかけ

昔から自然豊かな場所での暮らし、ゆったりとした仕事の仕方に興味がありましたが、なかなか行動できていませんでした。そんな中、コロナの影響で在宅ワークをすることが増え都会にいなくても仕事ができるなら田舎で暮らしてみてもよいのでは？と思いいろいろ調べてみたところ、地域おこし協力隊や現在活動している美郷町君谷地域の花づくりやみつばちの活動を知り興味を持ったことがきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

とくにこれをやるぞ！と心に決めていることはありませんが、地域に貢献できるような活動をしながら複数の仕事で生活していくような働き方・暮らし方を目指しています。行事やイベントに積極的に参加したり、わくわくすることに挑戦していき、自分らしい働き方や暮らし方を見つけていきたいと考えています。

活動内容

●花づくり

先輩の代から耕作放棄地を活用して花づくりをし、蜂を育てて蜂蜜を生産されています。私の中でもミソハギという湿気を好む花を休耕地を活用して育てる活動をしています。草刈り、草抜き、苗植え、水やりのほか、イノシシの多い地域ですので電柵の管理を行い花畑が荒らされないように気を配りながら育てています。



●小学2年生向けみつばち学習

養蜂に取り組んでいる方と一緒に小学2年生に向けたみつばち学習を実施しています。一緒にミソハギの苗植えをしたり、ミツバチを観察したり、はちみつ石鹸づくりをしたりと年間通して3回の授業を実施しています。



●蜜蝋クリームづくりワークショップ

養蜂に取り組んでいる方と一緒に蜂蜜の作り出す蜜蝋を使った蜜蝋クリーム作りのワークショップを行っています。



●地域住民との交流

地域内で行われる様々なイベントに参加し、住民のみなさんと交流をはかっています。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
インスタグラム @kimidani_zoe

基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
兵庫県神戸市
【転出元】
東京都杉並区
【前 職】
システムエンジニア
【活動時期】
R2.8～(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

●自然と都市のバランスが魅力的

自然と共存した暮らしに憧れるも、生活の継続に不安を抱いていた。倉敷は、自然と都市との距離感が近く、移住・定住して生活できる良いイメージが沸いた。

●若者が活躍するフィールドに共感

倉敷市の児島下津井(こじましもついで)で若い方々が活発に活動されている雰囲気共感。倉敷の魅力向上に向けて、様々なチャレンジを行いたいと思い、倉敷に移住することを決意した。

今後の抱負・任期後の目標

松島の豊かな自然や海産物、美しい景観など、魅力的な地域資源を活用していきたい。「松島のポテンシャルを背景に、新たな価値観が生まれ次の世代につながっていく」、そんな流れを起こしたい。

開業を目指している民泊やワカメ漁などを通じて、どのように地域資源を活用するか、どのように地域に還元できるかを模索しながら進めていきたい。

活動内容

●旧松島分校の利活用

倉敷市下津井沖の離島「松島(まつしま)」にある、廃校した市の学校「旧松島分校」は、芸術の創作活動の場として動き出している。滞在制作をされる芸術家の方々を受け入れ、皆さんが集中して創作活動ができるよう、分校の掃除や島内の草刈り、漂流物等の片付けなどの環境整備に努めている。



●古民家の再生と民泊の開業

松島に気軽に人が訪れることのできる場を作るため、民泊の開業を目指している。松島の古民家を活用して、地元の大工さんの力を借りながら改装を開始。人手も知見もない中で、古民家の改装はとて大変だが、目に見える立体的な成果があり、日々、小さな達成感を感じながら汗を流している。



●ワカメ漁の継承など

地元の方々に、松島の歴史や生活文化を教えるだけでなく日々、勉強をさせてもらっている。例えば、松島の特産品はワカメであり、ワカメ漁を継承するため、地元漁師さんにワカメ漁を教わりたい。コミュニケーションを大切に、皆さんの松島への想いを活かしながら活動している。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
マツシマ荘 HP: <https://matsushimaso.jp>
Instagram: @o_matsushimaso

基本情報



【年 齢】
24歳
【出身地】
香川県 善通寺市
【転出元】
兵庫県 神戸市
【前 職】
学生
【活動時期】
R4.5.1～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

大学院のフィールドワークで美波町由岐地区を訪れた際に、地域おこし協力隊を募集しているということを知りました。他の地域についても検討しましたが、防災の研究をしていることもあり、美波町が一番防災の知識を生かすことができるのではと思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

平時の課題と災害時の課題は繋がっているので、災害時の対策は考えつつ、平時の課題を福祉的な点から楽しく解決していけるように頑張りたいと思います！

活動内容

●コミュニティカフェ“まったりカフェみなみ”の手伝い

自主防災組織の女性部の方が運営するコミュニティカフェ“まったりカフェみなみ”にて、毎週火曜日のランチ営業のお手伝いをしています。仕込み作業、材料計算、買い出し、チラシ作り、配達、SNS更新等を行っています。コロナ禍のため、お弁当や惣菜販売がメインとなっていますが、店内飲食で人と人の繋がりが続いていくように、今後取り組んでいきたいです。



●個別避難計画作成に向けた高齢者へのヒアリング

地域で避難支援が必要な方への計画を考えるためには、まず支援者の方が何人、どこにいらっしゃるのかを把握する必要があると考え、まずは後期高齢者の1人世帯と夫婦世帯を対象に自主防災組織の方と一緒にヒアリング調査を行いました。状況は変化していくので、今後も続けていきたいと思えます。



●個別避難計画作成に向けた地域組織での取り組み

ヒアリングで明らかになった支援が必要な方々の避難計画を、地域で作成することを目的に、支援者となる地域組織の方を集めた会議を開きました。その会議で話し合った計画が本当にできるのかを、避難訓練で検証し、今後の地域活動へとつなげていきます。



連絡先

【活動の様子を発信しているTwitterのURL】
https://twitter.com/mattari_kizuna

基本情報



【年齢】
55歳
【出身地】
岩手県 盛岡市
【転出元】
神奈川県 大和市
【前職】
海上自衛官
【活動時期】
R 4.6.1 ~
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

前職を退職後に四国に移住を考えていたところ、都内の移住相談会に参加し担当者から協力隊の説明を受け、移住へのステップと考えていた。
実際に木岐や役場の方々に会い、皆さんの人柄と木岐の自然豊かな環境にひかれ応募した。

今後の抱負・任期後の目標

木岐まちづくり協議会として会長とともに、所属する各団体のさらなる積極的な参加、活動を目指す。
任期後は県内に就職、移住を希望する。

活動内容

●10/30思い出コンサートの実施

歌手の皆谷尚美さんを招いて、現在休校中の木岐小学校で木岐の地元のお年寄りの方を中心に約100名の来場があった。この企画を計画し、準備段階から当日まで中心となり、盛況に実施できた。



●10/23かかし展示会の実施

毎年の恒例になっている行事ですが、木岐奥地区のふれあい農園にてかかしの展示を中心に、子供たちへのミニチュアかかし作成や焼き芋の振る舞い、ミニチュアかかし人気投票などを行った。



●9/16の台風によるの消防団の対応

水門が波をかぶり、砂でせき止められて雨水が排水出来なかったため、水門を開放し対応しました。
また木々の倒木による被害の確認を行なった。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) kiki-yasuragi@me.pikara.ne.jp

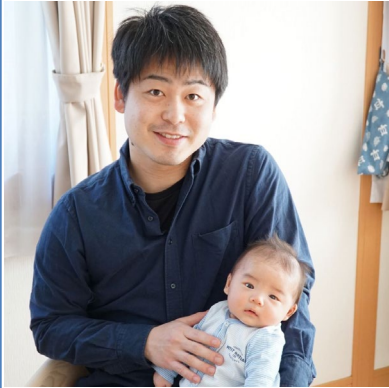
(電話番号) 080-2986-1195

【**職場**・その他 (〇〇)】

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/minami.kyouryokutai>

基本情報



【年齢】
26歳
【出身地】
徳島県東みよし町
【転出元】
東京都杉並区
【前職】
株式会社リクルート
【活動時期】
R4.4～(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

着任した東みよし町は私の故郷であり、10年前に地元を離れる際に「地元を世界一のまちにする」と決意したためにUターンで妻と一緒に戻ってきた。協力隊への応募理由は地域の情報と将来計画をインプットし、改めて地域に根付くための土壌づくりをする環境として行政と協働する上で最適な機会と認識したから。実際に協力隊として活動する中で、地域や行政の抱える現状課題について新しく知れたこともあり、また行政職員と関係構築できたことも大きな収穫だった。

今後の抱負・任期後の目標

これから私は地元・東みよし町を「世界一の人財育成のまち」にしていく。そのために、まずは住民が自分たちでまちづくりを積極的に取り組みやすい環境づくりやマインド醸成が重要になってくる。今後の活動として、地域のコミュニティネットワークを結びつけて強化する、地域交流拠点CO-MORIを開設・運営していく。今後の目標はCO-MORIが地域の未来をより良くするプロジェクトと人材を生み出す拠点にしていきたい。

活動内容

●地域分析調査

現状の地域交流や多世代交流について、若者(n=60)と地域のキーパーソン(n=40)に対して1人30分～1時間の住民ヒアリングを実施し、地域の現状を可視化した。今後の活動で解決すべき課題把握だけでなく、町政のヒントも多くキャッチできたことで、町長含め行政から高い評価をいただいた。



●地域コミュニティ拠点CO-MORIの開設準備

東みよし町は「田舎過ぎない田舎」で、住民は危機的には困っておらず、行政が何とかしてくれた経験から、地域の主体性が周辺地域よりも欠けている。そこで、CO-MORIを立ち上げ、住民が自分たちが楽しみながら新しい取り組みを始めて、その活動を通じて自己開発できるような環境整備を進めている。



●公式Instagramの運用

着任当初、SNSを活用した町の情報発信をしたいと行政からミッションを任せられ、SNSの活用目的やKPIの設定、退任後に行政が自走できる運用システムの構築を実施した。担当から約半年間で、停滞していた既存アカウントを再稼働させ、フォロワー数も380人から600人と約1.5倍まで増加させることができた。

▶東みよし町の公式Instagram整備と運用



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) comori.tokushima@gmail.com
(電話番号) 080-6373-1499

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
現状はなし(今後、CO-MORIの活動についてはSNSを立ち上げ予定)

基本情報



【年齢】
41歳
【出身地】
北海道旭川市
【転出元】
北海道旭川市
【前職】
高梁市地域おこし協力隊
個人事業主
【活動時期】
R2.4～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

地域と密着しながら、住民、協力隊、行政と連携し、地域活性化に携わる仕事を探していたところ、綾川町で協力隊の募集があったため。

今後の抱負・任期後の目標

地域活性化を目的に、地域住民と団体をつくり、外部人材を呼び込みながら交流事業を進めていく。

活動内容

●活動内容 公民館連携活動

綾川町役場と活動地域である西分公民館に拠点を置き、職員の仕事をサポートしたり、訪れる住民の活動に参加してコミュニケーション、情報発信と共有を行っている。

公民館を利用した地域団体イベントの様子



●活動内容 地域集落活動

活動地域の集落に入り、自治会に加入する傍ら草刈り、地域清掃活動などの協力活動に従事しコミュニケーションをとっている。

集落の法面の草刈り作業



●活動内容 空き家活用事業

大相集落の空き家を活用し、交流事業を行っている。内覧会、地域おこし協力隊報告会、公民館クラブへの場所貸し、モニターツアー、作物収穫作業などを地域住民と共に企画、実施している。

集落モニターツアーの様子



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) iimachi@town.ayagawa.lg.jp
(電話番号) 綾川町役場いいまち推進室 087-876-5577

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
綾川町地域おこし協力隊Facebook
<https://www.facebook.com/Ayagawa.chiikiokoshi>

基本情報



【年齢】
36歳
【出身地】
兵庫県神戸市
【転出元】
香川県高松市
【前職】
コールセンター勤務
【活動時期】
R3.4~
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

海外で経験を積み、大学院進学のため帰国。2020年4月に入学した際、コロナ禍に遭遇する。コロナ禍での大学院生活を送り、地域活性化に興味をわく。実践的にも地域のために役立てる方法を模索していたところ、友人から地域おこし協力隊を勧めてもらい応募した。

今後の抱負・任期後の目標

キャンプ場の利用客や芸術祭の観客の滞在時の満足度をあげ、「また来たい」と思っただき、何度も地域に足を運んでもらえる人を増やしたい。そのために、環境づくりや、接する人のモチベーションを上げるもしくは維持し続けるように、協力していきたい。

また、地域住民が主体的に、地域をより良くしたいと思え、住民や地域の企業の得意な面を引き出せるようにして、その人たちが得意分野で活躍してもらえるように、活動を通して調整や仕組みづくりに貢献したい。

活動内容

●早起きは三文の徳プロジェクト

2年目に入り、偶然、小学生の朝の通学バスの待ち時間の様子を見学した。そして、通学バスの待ち時間を有効活用できないかと考え、当該プロジェクトを発案。1学期は「ことわざ教室」、2学期はさらに「水仙百本計画」も始動し、児童、保護者と小さな成功体験を通して、主体的に地域をよりよくなる楽しさを実感してもらうことを目標とし、取組み中。



●「道の駅に寄って、キャンプ場へ」動線づくり活動

担当地区にはBBQもできる町営のキャンプ場がある。キャンパーの持ち込み食材を観察すると、町外のスーパーで買い物したものが大半であった。綾川町の野菜は美味しく、BBQでも勝負できるのに、その美味しさをキャンパーに対してPRできていないのでは？と考えた。往路時に町内にある道の駅に寄って、BBQ食材を購入してもらう、動線づくり活動に取組み中。



●「第5回 かがわ・山なみ芸術祭」実行委員活動

担当地区発祥の「かがわ・山なみ芸術祭」の実行委員としても活動中。2年（3年）に1度開催で、2022年は開催年である。第5回目の今回は町内の展示エリアを拡大する目標で、地域住民を巻き込んで、準備を進めている。協力隊員自身にとっては、初めての経験で、同じ実行委員や地域住民に教を請いながら活動。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) iimachi@town.ayagawa.lg.jp

(電話番号) 087-876-5577【綾川町役場総務課いまち推進室】

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

FACEBOOKページ「綾川町地域おこし協力隊」

基本情報



【年齢】
51歳
【出身地】
大阪府 堺市
【転出元】
東京都 中野区
【前職】
デイサービス
【活動時期】
R2.4~
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

- ・地方での暮らしに興味があり、父の出身地である愛媛県は馴染みがあった。
- ・サイクリングで何度もしまなみ海道に来ていたため、候補となった。
- ・協力隊として移住すると地域に馴染みやすいと考えた。
- ・協力隊の期間に生業作り、住居探しができると考えた。

今後の抱負・任期後の目標

- ・「介護タクシー・困りごとお手伝いサービス」の開業
- ・格闘技フィットネス教室の継続および参加者の増加

活動内容

●格闘技・フィットネスジム

18年間の格闘技経験を活かし、スポーツ施設がない島で、キックボクシングを基としたキックフィットネスおよび組技（グラップリング）教室を開催。子供から大人まで、今治市だけでなく、他市町村からも参加いただいている。



●オリーブ園

耕作放棄地を開墾し、特産化を目指しオリーブ園を運営しているボパイズクラブのお手伝い。一年目から、農作業やネットでの販路の拡大、フライヤー作成などのお手伝いを行っている。



●移住促進、情報発信

移住促進用のサイトを作成したり、ローカルの魅力発信サイト「ローカリティ！」に記事を書き、情報の発信をしている。



連絡先

メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) sumou@imabari-city.jp (電話番号) 0897-72-8772

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(HP) <https://www.shimanami-fight.com/>

(Instagram) https://www.instagram.com/grabaka_imabarioshima/

基本情報



【年 齢】
42歳
【出身地】
愛媛県 松山市
【転出元】
愛媛県 松山市
【前 職】
通信会社
【活動時期】
R4.4～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

幼い頃から海の見える波の音が聞こえる家で暮らすことに憧れを抱いていました。瀬戸内の多島美・夕陽・山々の美しさを再認識し魅了され、その頃からしまなみ海道に住みたいと思い、そして地域の人たちのお役に立てるような仕事がしたいと思うようになり地域おこし協力隊に応募しました。私自身も起業をしたいとあって、今治市の起業の色々な支援制度があることも気持ちの後押しとなりました。

今後の抱負・任期後の目標

コロナで思うような活動が出来ていませんが、地域の方々を対象としたストレッチ教室やマッサージ教室をどんどん開催して、皆さんが健康で美しく過ごせるお手伝いができたらと考えています。また、父の介護経験を生かして移住前から希望している老人介護施設へのハンドマッサージ訪問ができるようになればいいなと思っています。任期後はリンパケアセラピストとしてマッサージ店の開業と、ペットと宿泊できるドッグラン付きのゲストハウスの開業を目標に活動しています。

活動内容

●セルフマッサージ講座

社会福祉協議会主催の介護者が集まるサロン等で「セルフマッサージ講座」や私自身が参加者の方へ施術させていただく「癒やしのハンドマッサージ」活動や「アンチエイジングのセルフフェイシャルマッサージ教室」などを不定期開催させていただいています。



●子ども支援活動

伯方島にある子どもの第三の居場所作りをされている「ちんじゅのもり」さんや「伯方児童館」さんで子ども達のワークショップやイベントのお手伝いをさせていただいています。看板作りや親子ストレッチ教室など行っていますが、新しいワークショップも随時考えていきたいと思っています。



●ガイドブックリニューアル・新設場へ設置

前協力隊員が制作をしたガイドブックが大変好評で、情報のリニューアルとして、新店舗やゲストハウスなども追加掲載の活動を行っています。また、屋外観光地にガイドブックを設置出来ていなかったため、設置と管理を行っています。素敵な伯方を住民の皆さんにも改めて知ってもらいたい機会だと思っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス)sumou@imabari-city.jp
(電話番号)0897-72-8772

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
なし

基本情報



【年齢】
41歳
【出身地】
埼玉県加須市
【転出元】
東京都品川区
【前職】
飲食業
【活動時期】
R4.4~
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

移住での島暮らしに憧れ、いろいろな島を探すなかで今治の大島と出会い、移住前にそこでの生活（仕事）を考えている最中に、島の方からこんな制度があるよと教えて頂きました。すでに島のことが大好きだったので、その島の為になることが出来て生活が出来るという素晴らしい制度だと知り、応募させて頂きました。

今後の抱負・任期後の目標

長く「食」に携わる仕事をしてきたので、島でも食を通じて活動していきたいと思っています。特に、一人暮らしの高齢者の方が多く、お知り合いになって詳しい話を聞けば聞くほど食事は生協で冷凍ものを買う、、、などの食生活や、もっとこんなお店があったらいいのにと実際にみんなが必要としていることが少しづつわかってきたので、それに寄り添った活動がしていければと思います。

活動内容

●クラブ活動参加

地元のお婆ちゃん達が公民館を利用して活動している「古布クラブ」という会に参加しています。基本は古い着物のリメイクなどの裁縫ですが、月に一回料理会もしていて、地元の料理や調理法などを教わっています。



●カレイ山展望台 遠見茶屋運営

NPO法人から高齢化して運営できなくなっていた茶屋の運営の依頼があり、土日祝日に兼業で運営を始めました。景観が素晴らしく、来た人誰もが感動するような場所なので、これからもっと広めていって、大島に立ち止まるきっかけとなる場所にしていきます。



●放課後ボードゲーム開催

放課後の子供たちの居場所作りとして、毎週木曜日に公民館で放課後ボードゲームをしています。毎週たくさんの子供達が学校が終わってから楽しそうに集まってくる姿がとてもかわいく、年上の子が自分より年下の子にゲームを教えてあげたり、みんなですれ違ったりととてもいい時間を過ごしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) sumou@imabari-city.jp (電話番号) 0897-72-8772

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】



基本情報



【年 齢】
50歳
【出身地】
福島県 福島市
【転出元】
福島県 福島市
【前 職】
歯科医院
【活動時期】
R3.4～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

温暖な気候の島で、「コミュニティ空間」を作りたいと長年思っていました。子どもが独立したこともあり、SNSで移住について調べていたところ、「地域おこし協力隊」の存在を初めて知りました。定住したいという希望があったので、そのためには、地域の方々に自分を知ってもらう事、地域の方々との繋がりが大事だと思いました。「地域おこし協力隊」として、地域のために活動できることは、地域の方々と交流しながら、地域のことを知る良い機会だと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

「コミュニティ空間」（居心地のいい空間）を作りたいと考えています。飲食店（島の食材を使った料理の提供）を軸に、島内の作家さんの作品の展示や販売スペース、対面セッションができる談話スペースを作り、地域の方々も楽しめる空間を提供したいと思っています。

活動内容

●きれいな景観を目指す活動

色褪せた看板の塗装や補修を行っています。大島在住の画家のとんぼさんにアドバイスを頂いたり、地域の方々には足場をお借りし、高所作業などはお力をお借りしながら作業しています。その他に、毎月数回、海岸清掃を行っています。



●子供たちとの活動

B&G海洋クラブ活動「マリンスポーツ活動」「水に賢い子どもを育む年間型活動」、伯方児童館「親子クラブ」「出前あそび講座」、吉海小学校「ふるさと学級」ほか、子どもたちの活動をサポートしています。



●高齢者の方との交流

オリーブ園・ブルーベリー園・しんせん農園などの農作業（草刈りや収穫など）、ハーブソルト・ジャム作り、収穫祭などイベントのフライヤーやプライスカードの作成などのお手伝いをしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) sumou@imabari-city.jp
(電話番号) 0897-72-8772

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://www.facebook.com/imabari.ohshima>

基本情報



【年齢】
24歳
【出身地】
神奈川県 藤沢市
【転出元】
神奈川県 藤沢市
【前職】
銀行
【活動時期】
R4.4~
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

- ・瀬戸内海の街で暮らす選択の手段として、地域おこし協力隊という手段を見つけた。
- ・瀬戸内海の魅力を全国と世界中の人にもっと知ってもらい、今治へ遊びに行きたい、暮らしたいという人を増やしたいと思った。
- ・場所を選ばない働き方が主流になりつつある昨今、「職場に通いやすい場所で暮らす」のではなく、「本当に住みたい場所で暮らす」人のサポートをしたいと考えた。

今後の抱負・任期後の目標

- ・観光と教育の側面から今治を盛上げたい。
- ・観光ではサイクリング客が回れる場所、サウナなどの休憩所を作りたい。また友人や元同僚、学生時代の恩師を通じて、観光、移住、ビジネス展開を検討中の人に今治を紹介する。
- ・教育では「子供が学びたいことを好きに学ぶ寺子屋」を作り、子供の主体性を育める場所を作りたい。
- ・自分の本当にやりたいことを見極める。

活動内容

● 東部桜井地区での活動

今治市東部の桜井地区の綱敷天満神社にて、子供の成長祈願祭「宮島さん」や敷地内にある「清風館」での映画上映会の手伝いを行った。また同地区の石風呂跡にて、清掃や海上自転車大会の運営に従事。今後も地元住民と協力の上、「島だけではない今治の魅力」を桜井地区から発信していく。



● 小学生を対象としたサイクリング教室

今治市内の小学生向けの観光課施策。今治の代表的な観光資源であるしまなみ海道のサイクリング体験を通じ、子供たちのシビックプライドの醸成を目指しつつ、仲間と共にサイクリングをする楽しさを味わってもらった。同時に交通安全教室も実施し、子供らが交通ルール学ぶ機会にもなっている。



● プログラミング塾

協力隊OBが経営するプログラミング塾にて従事予定プログラム構築を通じ、生徒の主体性や想像力を磨き、数理的な考えを身につけることなどがテーマ。今治の子供たちの教育に貢献し、かつ寺子屋運営の参考にしたい。現在は研修を受けており、2023年1月に勤務開始見込。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス)sumou@imabari-city.jp
(電話番号)0897-72-8772

基本情報



【年齢】
52歳
【出身地】
東京都世田谷区
【転出元】
東京都豊島区
【前職】
調理師
【活動時期】
R2.4～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

母が他界し、都心部にいる必要性が薄れ、また前職が施設系の調理師だった為、同職であれば都市部との賃金格差も少ないので地方に目を向けた。現在の地域に注目したのは様々な立地条件が自分の起業に活かせると思ったからである。

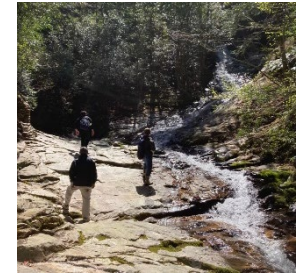
今後の抱負・任期後の目標

退任後は飲食系での起業を予定している。
また、地域企業同士、協力隊ミッションの製品開発や販売協力などもすでに着手しているが、現行の職員型でのマネタイズができないため、今後の課題として重要なファクターになっている。
地方行政区分以外から「特定地域づくり協同組合」のお話もいただいております。可能ならそちらにも注力したい。

活動内容

●地域観光資源の現地案内

えひめ南予きずな博における移住希望者に向けた移住・定住促進ツアーの行程作成協力、ツアー当日に御槇地区及び市内の現地案内人として参加。また、関係機関などに向けても、御槇地区の観光資源を案内。



●行政境を超えた「南予エリア」としての商品開発等

単独市町ではすでに販売、誘客、移住政策などの力が減衰しており、広域エリアでの協力体制での対応を「民間主導」で出来るように様々な企業や人材のマッチングや、開発の仲介・原案提供などを行っている。

●地域コミュニティ組織傘下「みまきガーデン」の運用補助

宿泊、飲食を主とした民間の組織である「みまきガーデン」において、当初は運用の最適化を目指したが、様々な問題から方針を「延命」に切り替え、着任中の助成金申請や政策への対応、それを活かした誘客などに注力している。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(みまきガーデンFB) <https://www.facebook.com/mimakigarden>

基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
大阪府 藤井寺市
【転出元】
大阪府 大阪市
【前 職】
会社員
(製造機械系の商社)
【活動時期】
R2年.9月～ R4年.3月
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

生まれも育ちも、働いているのも大阪という都会よりの生活をしていました。特に何をするでもない普通の人生になるのかなという漠然とした不安や何者にもなれないことに焦りを感じていました。そこで思いきって大きく環境を変えてやりたいことをしようと思ったことがきっかけです。学生時代から地方創生などに興味があり、協力隊の制度や募集要項が魅力的だと思ったので愛媛県の東温市を選びました。

今後の抱負・任期後の目標

まずは地域をどうこうするよりも自分の生活を守る、より良くしていくことを目的として動きます。任期後は宿泊業やサウナ・農業などを生業としていく予定です。観光業を通じて、東温市や愛媛県の良いところを旅行者の方々に発見してもらえればと思います。そこから農業の事業で他の方にも生業を提供することなどが出来れば移住したいと思える人も出てくるのではないかと思います。その一歩目として、どう生活を成り立たせているかを証明することが必要なのではないかと思います。

活動内容

●シキミの担い手募集

活動地域の井内地区の特産品はシキミという植物で西日本では墓にお供えするものとして使われています。担い手不足や、耕作放棄地の増加が問題になっています。自身で畑を借りてシキミ作りを学びながら、アルバイトを募集し体験することで興味を持ってもらい将来的にやってみたい方を募集しています。



●シキミ線香の製品化・販売

地域の特産品であるシキミの廃棄される部分を活用できないか？というアイデアから始まった線香づくりのプロジェクト。製品の作製からパッケージデザイン箱詰めまでを地域で行い販売に至った商品。商品のPR活動や、販売の補助などを行いました。



●菖蒲園の開園

地域で昔から開園されていた菖蒲園が、管理者の方が高齢になられたことで存続が難しくなりました。そこで菖蒲園を残すために地域の方々と協力して、園内の整備や菖蒲の管理などを行い今後も継続できるように改修などを行いました。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Twitter) <https://twitter.com/waihashi>

基本情報



【年齢】
40歳
【出身地】
新潟県長岡市
【転出元】
京都府京都市
【前職】
鍼灸師・俳優
【活動時期】
R4.4～

協力隊に応募したきっかけ

学生時代から芸能活動を開始し、TVドラマ「特捜戦隊デカレンジャー」などに出演。2005年8月に高知市で開催したヒーローショー出演が初めての高知でした。

芸能活動の傍ら東洋医学を学び、2018年に鍼灸院を開業。2021年6月まで島根大学地域包括ケア教育センターの職員としても勤務し、離島での地域包括ケアや大学院での研究生活を経て地方創生への情熱が湧きました。大学時代の恩師が開院している縁のある高知への移住を決意したタイミングで地域おこし協力隊の募集を知り、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域を巡回していると、住民の方から「今なにしゅう？（今なにしてる？）」とお声を掛けられることが多くなってきました。徐々に皆さんに受け入れていただいているんだなと実感し、うれしく思っています。

地域の皆さんが笑顔になるように、自分の強みを生かしながら、地域活動に取り組んでまいります。

任期後は、協力隊としての経験も活かし高知市で鍼灸院を経営し、患者さんの健康養生に寄与できるように頑張っていきたいです。

活動内容

●地域行事への参加や資源の発掘・活用

地域行事への参加や資源の発掘・活用に関する活動などを行っています。着任2日目の4月2日に、長浜地域の伝統行事である「神田祭（通称どろんこ祭り）」に参加。地域の方と直接話すことができ、次の行事へ声がけいただくなど、地域の皆さんとの距離が縮まるきっかけになりました。



●情報発信

広報紙やホームページの作成・SNSなどによる情報発信を行っています。

協力隊目線で地域資源の素晴らしさを伝えようと、すいか農家、干物屋、どろめ漁師への取材を企画。地域の方々との関係構築ができたほか、協力隊自身も新たな体験ができました。



●地域おこし学校「こうちみませ楽舎」の企画・運営

旧御豊瀬小学校の校舎を活用し、地域住民や地域おこしに興味がある方と一緒に活性化に取り組むための「こうちみませ楽舎」の企画・運営に従事。1年目はオープンスクールや開校式での司会、教室の進行管理などを行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

高知市地域活性推進課（メールアドレス）kc-011700@city.kochi.lg.jp
（電話番号）088-823-8813

【活動の様子を発信している
SNS・ブログなど】



高知市HP



Instagram



note



Twitter

基本情報



【年齢】
52歳
【出身地】
大阪府大阪市
【転出元】
大阪府八尾市
【前職】
児童養護施設事務局長
【活動時期】
R4.4~

協力隊に応募したきっかけ

海外のリゾートが大好きで、ハワイやバリ島などよく出かけていました。コロナ前までは海外に移住を考えていましたが、コロナがきっかけで日本の良さに気が付き、子どもの進学を期に高知を知り、偶然、高知市地域おこし協力隊の募集チラシを目にして今は、高知市にいます。

今後の抱負・任期後の目標

この任務に就き私が感じた事は、地域で活躍されている人を深く知ることで、人の温かさや地域の魅力がよく分かるということです。今後、私が実践したいのは、人口減少はもう止めれない中、今の流行など周りと同じことをしていても一時的な活性にしかありません、私は地域の声を拾い上げたうえで、ココでしか無い、この場所でしか出来ない、まだまだ眠っているオンリーワンの資源を掘り起こし、地域おこし協力隊ならではの発信の仕方でも長浜・御豊瀬・浦戸地域の皆さんと一緒に活性していきたいと思っています。「地域作りは人作り」この地域の皆さんとなら叶うような気がします！

活動内容

●地域おこし学校「こうちみませ楽舎」の企画・運営

こうちみませ楽舎とは、学びと実践を通して地域おこしを行う場所で、今年度はプレミアム教室と通常教室を開校しています。私は、プレミアム教室では受講生として、通常教室ではスタッフとして参加しています。

また、御豊瀬にある干物屋さんを講師に迎え、高知大学野生生物研究会の皆さん協力のもと、特別教室の開催を企画しました。

また、みませ楽舎の事をもっと知って頂きたいと思い、地域を飛び出し高知大学の黒潮祭やイオンモール高知のSDGs イベントなどに参加し、PRしてきました。



●広報紙や・SNSなどによる情報発信

SNSの発信の他に紙媒体の広報紙「新・里海かわら版」や「協力隊なにしゅう」を定期的に発行しています。地域にはお年寄りも多く、紙媒体での告知は重要です。また、直接渡すことにより、会話も広がり、住民との距離が近くなりました。特にVOL.7の取材を通して地域の方々の思いや、優しさに触れる事ができ、とても貴重な体験をさせて頂きました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

高知市地域活性推進課（メールアドレス）kc-011700@city.kochi.lg.jp
（電話番号）088-823-8813

【活動の様子を発信している
SNS・ブログなど】



高知市HP



Instagram



note



Twitter

基本情報



【年 齢】
33歳
【出身地】
長崎県諫早市
【転出元】
大阪府門真市
【前 職】
家具メーカー 営業
金属加工業
【活動時期】
R3.12～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

学生時代から毎年サーフィン目的で高知県を訪れており、高知県で暮らすことを検討していました。求職中に室戸市の地域おこし協力隊の募集を見つけ、募集事業のひとつに室戸岬椎名地区の集落活動支援というものがありました。

調べてみると椎名大敷という定置網漁を基幹産業としている小さな集落。活動形態上、地域住民との距離が近く地域を知ることや自分自身を知ってもらうことへの近道になると思い応募を決めました。母の故郷が小さな漁村で椎名地区に懐かしさを感じたこともきっかけでした。

今後の抱負・任期後の目標

着任後1年が経ちましたが、この1年間は通年行事を一通り経験する1年としました。自分自身ができることや好きなことが出てきたので、今後はそのことを中心に地域活性化につながる活動を行っていきたいです。

目標は宿泊施設を開くことです。家族やサーフィン仲間、観光客にお遍路さんなどで賑わう場所を作りたい。海辺の暮らしやピザ作りの体験ができたり、地域の方々とカフェを開いたり一緒に体操をしたり、現在の活動を活かした施設にできたらと思っています。

活動内容

●体験プログラムの企画・実施

ビーチコーミング・クラフト体験を企画、イベントを実施し観光客向けにネット商品化。海岸での漂着物収集やモノ作りを通じて地元の海の魅力や問題を発信しています。イベント時はビーチコーミング活動をしている地元住民を講師に招き、地元小学生を中心に参加してもらい地域交流の場となりました。他の体験活動やイベントへの出店も行っています。



●活動グループのフォロー

勤務場所である集落活動センターには地域住民でカフェを運営しているグループや高齢者が体操などの活動をしているグループがあります。メンバーの減少や高齢化もあり事務業務や活動準備などのフォローを行っています。地域住民が身近になり活動がないときの交流も増えました。



●ピザ作り講習会の実施

集落活動センター敷地内にはピザ窯があり、月に1度地域住民向けにピザ作り講習会を行っています。ピザを生地から作り石窯で焼くまでを学び将来的には観光客向けの販売をできるようにすることが目的です。今年度は1度観光客へのピザ焼き体験を実施しました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) hikaru.19890915@icloud.com
(電話番号) 0887-98-7020 (椎名集落活動センターたのしいな)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
インスタグラム (個人・地域団体しいな遊海くらぶ)



基本情報



【年齢】
51歳
【出身地】
埼玉県 ふじみ野市
【転出元】
高知県 安芸市
【前職】
看護師
【活動時期】
R2.3~
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

食べ物が美味しく絶景の多い四国での生活に憧れていました。資格を生かして仕事を見つけられないか模索する中で、都内で開催されていた高知県の移住フェアに参加しました。そこで地域おこし協力隊の制度を知り、挑戦してみたいと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域にプラスアルファをお届けできるような存在を目指して活動してきました。

残りの任期があと数か月となり、医療・福祉の分野に戻ることを視野に少しずつ動いています。兼業で地産材を利用してものを作る仕事をしてみたいので、余暇でこしらえたハンドメイド品をお世話になった方にお渡しして感想を聞いたりしています。

また、活動を通じて野菜を作る楽しさを学ぶことができましたので何らかのかたちで続けられたらと考えています。

活動内容

●入河内大根のこそう会での活動

地域の畑をお借りして入河内大根を作っています。入河内大根は安芸市の伝統野菜で、PRをかねて市外スーパーで販売を行っています。毎年民放各局様の取材を受けたりもします。入河内大根のこそう会では会計を担当していますので出荷時期の1~2月は繁忙期です。



●集落活動センターかまん東川としての活動

テレビや学校からオファーを頂いて取材を受けたり活動について話をさせて頂いたりしました。県主催のマルシェ出店もさせて頂きました。最近では地域の方々から要望を受けて、皆でお茶を飲みながらお喋りするサロン活動を行っています。



●地域見守り・地域新聞配布

地域の駐在さんと情報を共有しながら、見守り活動を実施しています。地域新聞を配布し、お声かけをしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) rivereastcooperation@gmail.com

(電話番号) 0887-32-3031 集落活動センターかまん東川

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(かまん東川 (facebook))



基本情報



【年齢】
45歳
【出身地】
北海道 釧路市
【転出元】
愛知県 小牧市
【前職】
特別養護老人ホーム
【活動時期】
R3.9～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

福祉の仕事に携わる中で高齢者に対する強い尊敬の念が出てきました。「何かひとつでも自分にできることはないか？」と考えていたところ、地域おこし協力隊として高齢者移動支援コーディネーターの募集を知り、自分の経験を活かせるチャンスだと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

○今後の抱負

各地域や介護予防教室に出向き、高齢者の移動手段の実態調査に入る。今後の生活支援や移動支援の検討の参考に資料をまとめる。

○任期後の目標

NPO法人を拠点とし、福祉・ユニバーサル事業に携わっていきたいと思います。地域住民の助け合いや子供から高齢者まで気軽に参加できる事業のお手伝いに取り組みます。

活動内容

●活動内容1 高齢者へのアンケート調査

介護予防教室や地域に出向き、高齢者の移動手段の実態調査を行う



●活動内容2 関係機関との連携

地域支援課とタクシー会社の協議に同席して、タクシー会社への聞き取り調査を行う。
また、地域支援課と介護予防教室へ同行して、市バスの利用についての実態調査を行う。



●活動内容3 資料整理

実態調査を元に、アンケートを入力し集計結果を出す。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) hoken@city.kochi-konan.lg.jp

(電話番号) 0887-57-5811

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(Instagram) https://www.instagram.com/konan_city_kyouryokutai/

(HP) <https://www.city.kochi-konan.lg.jp>

基本情報



【年齢】
57歳
【出身地】
高知県高知市
【転出元】
東京都小平市
【前職】
会社員
【活動時期】
R2.8～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

地元でUターンを考えていたおりに、本協力隊の募集を知りました。活動地域は、以前にスキューバダイビングを実施した事があり、その時に自然豊かな環境の良い場所である思い出がありました。そのスキューバダイビングサービスが現在は閉鎖しているとの事と地域が限界集落になって来ているとの話を聞いて矢井賀地区の活性化に尽力したいと応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

残りの約1年で少しでもダイビングサービス再開の足掛かりを作りたい。任期後は、地域に残って漁師を目指しながらダイビングサービスの再開を目指す。

活動内容

●地域行事への参加

地域で一番大きな松尾神社で行われる中土佐町の無形文化財である「花取り踊り(練り)の奉納」が住民の現象化の為に5年ほど実施されていない。この奉納の復活を目指すべく他の地域の力を借りることも視野に入れて活動中。



●地元漁師さんの御手伝い

私は、スキューバダイビングのインストラクターや潜水士資格を持っており、その資格を活用して地元漁師さんの手伝いとして水中での作業などを行っています。



●ダイビングサービス再開活動

ダイビングサービス再開に向けて矢井賀の海中調査を実施しています。昔は素晴らしい珊瑚礁が点在していましたが、現在は、珊瑚礁はほぼ全飯しポツポツと点在して生息している状況です。今後は珊瑚礁の復活をする活動もしていきたい。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) shibaten2011@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
・<https://www.paddy3.com/> (現在構築中)
・<https://www.facebook.com/masanori.mizuta.3/>

基本情報



【年齢】
27歳
【出身地】
兵庫県芦屋市
【転出元】
神奈川県茅ヶ崎市
【前職】
総合デベロッパー
→フリーランス（スポーツ関係）
【活動時期】
R3.12～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

【知ったきっかけ】九州移住を検討しており、その中で佐賀県・福岡県にて仕事を探していた。佐賀県唐津市の移住相談ができるNPO団体から佐賀県庁の仕事をご紹介いただいた。

【応募したきっかけ】県庁の募集が複数ある中で、現在の「くらしのモビリティサポーター」の活動に強い関心を抱いた。また地域に“最適な”交通を関係者と見つけていくという仕事の進め方が自身に合うと感じたため応募に至った。

今後の抱負・任期後の目標

【今後の抱負】自身以外にも地域交通を考えていくサポーターを増やし、3年間で終わりのムーブメントにしないようにしたい。また交通に対する課題は日本全国同じなので、地域交通に関わる協力隊が増えるように働きかけをしたい。

【任期後の目標】実際に行政の中に入り、行政の仕組みを学ぶ機会は貴重であること。また県全体の仕組みづくりに関われることは、県庁所属の協力隊であるメリットだと考える。この経験を任期後も活かしていきたい。

活動内容

●交通と福祉の連携により既存の地域交通の魅力を高める

佐賀県基山町の交通担当・生活支援コーディネーター（SC）と連携をしている。地域内で「くらしのモビリティサポーター」を担える人材を増やしていきたいと、高齢者との接点が多いSCに注目した。SC向けのコミバス乗車体験会、交通担当と福祉担当との座談会を開催。今後、SC主催のコミバスイベントなどを開催予定であり、引き続き取り組みをサポートしていく。



●市町交通担当との関係構築・既存交通への乗車体験など

コミバスや予約型のりあいタクシーといった地域交通は市町が主体的に運行するものであるため、まずは市町交通担当に私の存在を知っていただくことに重きを置いている。また県内の地域交通の状況を知るために、コミバス中心に乗車体験中。運転手や利用者との会話、窓から見える街のつくりや家・車の保有数を見ながら、地域の特徴をインプットしている段階。



●地域主体の移動手段確保の動きをサポート

公共交通空白地域もしくは交通が不便な地域において、住民主体の動きが増えてきている。地域内の高齢者の移動手段確保に関するサポートを県として行ったり、社協を通して地域から移動手段に関する相談があったり、少しずつ直接相談をもらう案件が出てきている。移動手段の導入には手順や優先順位があるため、自身も勉強しながら対応している。
※この場合も市町の交通担当と連携を図りたいと考えている。

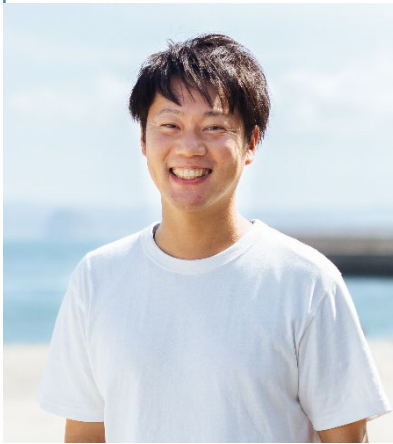


連絡先

【メディア等の取材連絡先】佐賀県庁さが創生推進課 木村宛
(メールアドレス) sagasousei@pref.saga.lg.jp (所属)
(電話番号) 0952-25-7505 (所属)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Facebookページ) 「くらしのモビリティサポーター」で検索
<https://www.facebook.com/kuramobisaga>

基本情報



【年 齢】
33歳
【出身地】
大阪府茨木市
【転出元】
大阪府吹田市
【前 職】
看護師
【活動時期】
R4.6～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

出身の大阪に戻る前に、瀬戸内海の島で訪問看護師として島中の家を訪問する仕事をしていました。各家には個人的な文化があり、島には島の文化があり、いろいろな人の生活文化、暮らしを見聞きする中で「島での暮らし」に興味を持つようになりました。以前住んでいた島は橋でつながっていたので、離島に住んでみたいと思うようになりました。観光地化していない独特の文化のある島を探していたところ、佐賀県の島で、人の話を聞き、記憶を記録する人を探していると知り、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期中の目標は、佐賀の7つの島の文化慣習を面白おかしく文化的に本にするミッションを行うのはもちろんですが、島の人々が少しでも元気に暮らしたい場所で暮らしを続けられるように、心身ともに健康であれるように、さりげなくお手伝いできたらと思っています。任期後の目標は、日本にある過疎化の進んだ知名度の低い島々の魅力を写真や文章を通して、少しでも多くの人に島の情報を届けて、関係人口を増やしていく活動をしていきたいと考えています。

活動内容

●7つの島を取材し聞き書きアルバムづくり

昔の文化や慣習は伝承することが少なくなっています。島の人へのインタビューを通して、アルバム(本)にまとめることをしています。島の行事、仕事、慣習、暮らしを取材、雑談して月に1度取材した内容を写真、イラストをもちいて、島内新聞を作成し、各島への情報伝達として配布しています。



●島人の写真撮影

スマートフォンやデジタルカメラの普及により、現像する文化がなくなりつつあります。昔のアルバムをみながら、懐かしむ瞬間は心に残ります。島の取材を通して家族写真や行事撮影を行い、現像して写真として形に残す活動をしています。



●食文化の交流

島ならではの料理の作り方を教えてもらい、一緒に作ったり、隊員の得意料理のたこ焼きやお菓子づくりを通して、島にはない食を提供している。隊員と島民の両方にとって新鮮な食文化のコミュニケーションを図り、日常に近い食のイベント活動をしている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) hasegawa-akinori@pref.saga.lg.jp
(電話番号) 050-5236-8213

基本情報



【年齢】
31歳
【出身地】
長崎県 佐世保市
【転出元】
東京都 日野市
【前職】
出版社勤務、私立美術大学助手
【活動時期】
R4.6～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

小さいころから絵を描いたり自然の中で遊ぶことが好きで、学生時代は絵画を専門に学んでいました。進学で九州を出て関東に10年ほど暮らしていましたが、ゆくゆくは九州に帰りたいという思いがあり、これからのこと、地方での仕事について考えているときに、島の協力隊のアルバムづくりの仕事を見つけました。プロジェクトの内容である「そこに住む人々が紡いできた歴史、土地の記憶を、お話を通して書き起こしていく」という点に大きな魅力を感じ、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

まずは3年後、島の方々に喜んでもらえるアルバムづくりができることが一番なので、「島の人たちが残したいと思っていること」を大切にしながら、島のことをじっくりと知っていきたいです。任期後は個人的にイラストや絵でお仕事できればと思いますが、3年間島で暮らしてきたことを活かし、島のレシピや歴史、聞いたお話など自分の絵で独自にまとめてみたいなとも思っています。自分ができる形で、島に興味を持つ人を少しでも増やすことができると考えています。

活動内容

●7つの島を取材し聞き書きアルバムづくり

島民の方から、島の暮らしや歴史、食文化などのお話を聞き、書き起こすという形で3年後に向けアルバムを作成しています。アルバムは七つの島を対象とし、それぞれの島に配布される予定です。

現在は七つの島を歩き回りながら、島のお祭りやちょっとした行事に参加したり、集めた情報をもとにまた人を訪ねていったりして、少しずつお話を集めています。お話だけでなく、実際に昔から島で食べられていた料理を一緒に作ったりしながら、当時の生活についてお話を聞かせてもらうこともしています。

また、島には高齢者の方も多く、島の記録として写真を残していることも少ないため、現在の何気ない島の暮らしの様子も撮影するようにしています。



●「聞き書き新聞」の作成

月に一度、日々の取材の内容をまとめた、全島民向けの新聞を発行しています。各島で聞いたことやイベントのお知らせなど、七つの島共通で配布することによってアルバムづくり活動の進捗報告だけでなく、島民が他の島の生活や歴史について知る、ささやかながらも、島同士を結ぶような存在になっています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) nagashio-chinatsu@pref.saga.lg.jp
(電話番号) 050-5363-2337

基本情報



【年 齢】
43歳
【出身地】
福岡県 北九州市
【転出元】
福岡県 北九州市
【前 職】
株式会社の経営
【活動時期】
R3年11月～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

経営者のつながりから佐賀県の各種CSO団体の活動に触れ営業やPRを委託で受けたことに始まり、CSO団体での活動の中で利益の為ではなく地域の為に本気で取り組まれている方々の利他の姿に感動したこと。またそれら活動の中で地域おこし協力隊の制度をご紹介いただいたこと。

今後の抱負・任期後の目標

経営者との交流の中でこれまで培ってきた人脈や見識を県民の協働というテーマに沿って地域に還元していきたい。特に防災とまちづくりの分野での事業化を残り2年の任期中に達成するため各方面のCSO団体との信頼関係構築を最優先課題としている。任期後は取得した専門性の高い免許や資格を活用しながら地域にニーズのある課題に目を向けソーシャルセクターでのNPOの立ち上げや2次創業を目指す。

活動内容

●災害支援団体での活動

災害支援団体【SPF】の事務局担当として重機講習や防災講習の運営を担当、動画撮影・編集のスキルを活用した県内外へのPR動画制作。

(動画URL)

<https://www.youtube.com/watch?v=EsZF2ExwoFw>



●まちづくり団体での活動

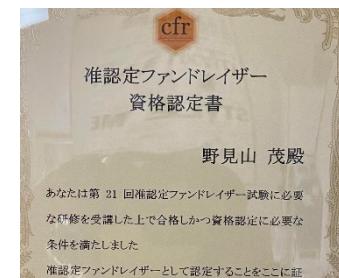
地域の夏祭りでごみの分別と持ち帰りを呼びかける、【栄の国まつり ごみダイエット大作戦】にて全体統括業務を担当、動画撮影・編集のスキルを活用した県内外へのPR動画制作。(動画URL)

<https://www.youtube.com/watch?v=5eCu6frGRqg>



●中間支援団体での活動

CSO団体の伴走支援の為、日本ファンドレイジング協会の准認定ファンドレイザーを取得。人・モノ・資金・情報といった団体運営に不可欠なものを集め団体が活動を続けられるよう支援するスペシャリストを目指す。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) s.nomiyama@saga-suttc.org
(電話番号) 080-6433-6891

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
アメブロ <https://ameblo.jp/cso-enmusubi/>
Youtube QRコードにて



基本情報



【年齢】
26歳
【出身地】
東京都江戸川区
【転出元】
佐賀県佐賀市
【前職】
(株) LITALICO 学習支援
事業部 児童指導員/保育士/
支援コンサルタント
【活動時期】
R4.1～(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

以前の仕事では自他ともに少しでも受容する事ができる環境作りや教育を「療育」という手段より熟考していました。一方で、都内特有の親子の距離感や習い事への依存意識に疑問を感じたり、地域で安心できる人と繋がれたりしていれば困りが減っていた可能性があると感じた事例も多かったです。近くで見えてくれたり自分のことを認めてくれたりする人がいることがその人の安心や自信に繋がるのではと考え「子どもの居場所立ち上げサポーター」の仕事に魅力を感じて応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

佐賀県内の子どもの居場所を20市町全てに設置、運営する地域住民がいる状態を作ることが目標です。「居場所」に対する認知度や開設ハードルが高いエリアに対して、理解促進と丁寧な支援内容を伝えることによって達成していきたいと考えています。任期後は未定ですが、子どもの居場所に対する価値の発信を中心とした活動を続けていきたいと検討をしております。

活動内容

●子どもの居場所に関するリアル+オンライン相談チャネル

県域を対象に子どもの居場所開設希望者の相談チャネルが無かった点に着目し、隔週で子どもの居場所相談を佐賀市内で実施した。同時にLINEを活用して居場所開設希望者を対象にした相談チャネルを構築した。



●開設希望者市町行政職員と関係者のマッチング

子どもの居場所を開設、運営する地域住民と該当市町の担当職員や関係者とのマッチングを行い、必要な補助メニューの提案や地域資源の支援提案につなげている。



●子どもの居場所開設の立ち合い、既存の居場所訪問

県域で子どもの居場所を運営する方々へのヒアリングや状況視察を実施し、課題点や問題点を整理しながら必要な支援内容を県が委託する中間支援組織と検討している。また、新規開設の際には立ち合いを行い安定した運営の支援をしている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) kusada-ayaka@pref.saga.lg.jp (電話番号) 0952-25-7056

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(子どもの居場所なんでも相談室) <https://lin.ee/Zv4IJ6Y>
(佐賀県 子どもの居場所 ポータルサイト) <https://saga-codomo.com/>

基本情報



【年齢】
28歳
【出身地】
京都府 京田辺市
【転出元】
ドイツ フランクフルト
【前職】
旅行会社営業
お好み焼き屋副店長
【活動時期】
R3.12～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

きっかけは孫ターンです。佐賀の伊万里に祖父母が住んでいて、小さい頃からよく遊びに行っていました。私の出身地はいわゆるベッドタウンだったので、伊万里の方がずっと“ふるさと”という気がしていました。外国に住んでいた時期もありましたが、佐賀の活性化に貢献したいと思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域の人と外国の人の、小さくても長く続く交流を増やしていきたいです。地域の人と外国の人同士で顔の見える関係性を作るお手伝いをします。「△△人の〇〇さん」ではなく、「〇〇さん」自身を知るきっかけを作りたいです。地域の人たちには、佐賀に住む外国人住民のことをもっと知ってもらい、一方で、外国人住民には佐賀のいいところをもっと知ってもらいたいです。そのために、今後は地域により入り込んでいけたらと思っています。

活動内容

●「やさしい日本語」でオンライン交流

3月実施。対象は、多文化交流サポーター(県職員ボランティア)と、佐賀に来られず当時は、ミャンマーにいた待機留学生です。内容は、互いのおすすめ(場所、物、食べ物)を「やさしい日本語」で紹介し合うというもの。留学生からは、「佐賀に行く前に知り合いができて、安心した」という声が多く寄せられました。



●「うちわ作り」で異文化交流

6月実施。上記の待機留学生がようやく佐賀に来れることになり、対面の交流会が実現しました。内容は、日本人参加者にアイデアを出し合ってもらい、「うちわづくり」に決定。ミャンマーでのうちわに関する考え方なども知ることができました。最後は作ったうちわを交換して、交流を深めました。



●国際フェスタでブース出展しよう！

9月～10月実施。県内大学生、留学生、多文化交流サポーターを集めて、10月末開催の国際フェスタでブースを出展してもらいました。国も世代も異なる彼らは、何度も話し合いを重ね、企画から運営まで全て行いました。異文化を体験できるブースは子供たちに大人気でした。

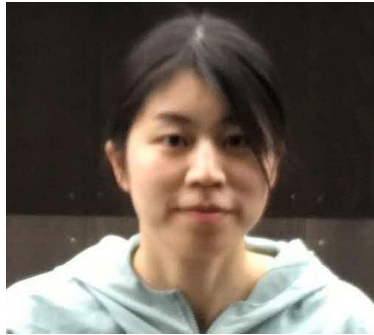


連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) kokusai@pref.saga.lg.jp
(電話番号) 0952-25-7328

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Excellent Saga 佐賀県国際課) <https://www.facebook.com/ExellentSAGA>

基本情報



【年齢】
32歳
【出身地】
東京都 練馬区
【転出元】
東京都 練馬区
【前職】
紙の専門商社事務
【活動時期】
R3.4~
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

祖母の住む佐賀県で職を探していたところ、地域社会に貢献できる点や、前職と全く異なる職種で新たに挑戦できる環境に魅力を感じたため応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

森林空間とヨガを掛け合わせて、人の心を豊かにしたり、心身ともに健康でいられる取り組みをしていきたいです。地域住民の方の健康維持に目を向け、日常的な健康づくりの場を築くことを引き続き行います。

活動の場を拡げるため、子育て支援センターでのヨガ、都市住民向けに豊かな自然に触れあい、心身を癒す場としての森林ヨガ実施を予定しています。

活動内容

●高齢者団体ヨガレッスン

高齢者の方の負担軽減を考慮し、従来のマットを敷いて行うヨガではなく、椅子に座って行う椅子ヨガ教室の実施。簡単な動きで体を動かし、自律神経や心を整えてリラックスしていただけるような取り組みやすい内容。



●地域イベント手伝い

直近では、「古湯温泉秋の彩フェスタ」を実行委員会の皆さんと協力し運営のお手伝いをさせていただきました。様々な方と交流を深め良い経験となりました。



●工作体験指導・補助

NPO法人みんなの森プロジェクト、北山森クラブにて子どもたちに工作・指導補助のお手伝いをさせて頂いています。出前講座に出向くこともあり、中山間地域のことを知っていただけるきっかけ作りにも繋がっています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) chiiki_kyoryoku@city.saga.lg.jp

基本情報



【年齢】
36歳
【出身地】
佐賀県小城市
【転出元】
東京都狛江市
【前職】
事務職（建設業及びビルメンテナンス業の会社）
【活動時期】
R3.6～
（2年目）

協力隊に応募したきっかけ

Uターン転職を考えるうえで、出身地である小城市に貢献出来るようなことをしたいなと思っていたところ、東京で移住の相談をしていて、さが移住サポートデスクの方に、小城市で地域おこし協力隊の募集をされていることを教えていただきました。

活動内容の説明を受け、棚田の保全や農業、地域づくりなど、未経験の分野ではありましたが、「面白そうだな」と興味を持ったので応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

ミッションは、江里山地域の活性化（アイデア創出とその具現化）と情報発信です。今後は、「棚田の保全と棚田で農業」をテーマに、以下の3つの項目につなげられるよう、地域のみなさんの思いを汲み取りながら、その実現に向けてサポートしていきたいと思っています。

1. お金を生み出す
2. 農作物などをもっと売る
3. 耕作放棄地を減らす

活動内容

●農業体験（米・野菜の栽培）

江里山の棚田での農業体験として、お米と野菜づくりに挑戦しています。栽培の経験がないので、地域のみなさんに助けていただくことばかりですが、お米や野菜を収穫する喜びを感じるとともに、栽培の大変さや棚田地域ならではの苦労があることも実感しました。



●地域コミュニティへの参加

江里山地域の伝統料理「さしみこんにゃく」を作り続けているグループの活動や、市内の中高生が農業体験を通して棚田の保全について学ぶ「江里山たなだ部」の活動に参加するなどして、地域内外の方との交流を深めています。



●コミュニケーション誌の発行

地域のみなさんとコミュニケーションを図るきっかけづくりとして、毎月1回、「だんだんだより」を発行しています。協力隊の活動内容を報告したり、地域活性化のヒントになるような情報を掲載したりしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）nourinsuisan@city.ogi.lg.jp
（電話番号）0952-37-6125（小城市役所 農林水産課）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（Instagram）https://www.instagram.com/eriyama_tanada/



基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
佐賀県佐賀市
【転出元】
神奈川県横浜市
【前 職】
NPO職員
【活動時期】
R2.10～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

災害支援をおこなうNPOの職員として6ヶ所の支援活動に関わりました。被災地域の復旧、復興は短期間では答えが出ません。しかし、被災地域外から支援に入る外部団体として活動の区切りがあることに違和感を感じていました。そんな中、令和元年佐賀豪雨の支援で大町町と武雄市で活動しました。その後、大町町が継続した被災者支援の担当として協力隊を募集する事を聞き、協力隊という行政側としてこれまでと違う立場で防災に関われる事や地域と一緒に復旧・復興に取り組むたいと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

災害が発生すると、避難所の設置・運営、人命救助、り災証明の発行など各種手続き、災害廃棄物の受け入れ、仮設住宅の手配など行政が対応する支援は多岐にわたります。しかし、このような事に平時から具体的な対応を検討することは難しいと感じます。このような課題を解決するためには、行政内にも防災の専門家を配置すべきと思い、防災コンサルタントとしてBCPなどのハード面ではなく、自治体職員の災害に係る制度認識向上や自主防災組織や地域ボランティア・NPOとの連携調整など発災時に必要になってくる地域防災力向上に向けて行政と一緒に取り組む体制を作りたいと考えています。

活動内容

●被災者からの相談対応、見守り支援

R元年の災害発生時より、みなし仮設住宅の入居者へのフォローや家屋改修後のカビ消毒などの対応を実施。また、生活再建支援金などの公的支援の説明や申請サポート、体調面など気にかかる方がいれば保健師や担当部署に情報を共有し対応頂くなど、住民と行政の橋渡し役として活動。



●発災時の災害対応コーディネーション

協力隊着任1年目のR3年8月に豪雨災害が発生。NPO職員時代の支援者との繋がりを活かし、支援活動を実施。定期的な情報共有会議を行い、地域住民、社協、行政や県内外の支援団体の活動を調整。被災者ニーズを汲み取り各セクターの専門機関に繋ぎ対応頂くなど現地コーディネーターとして活動。



●地域防災力向上

行政やNPOと連携し、地域住民を対象とした、防災講座、避難所の設置体験会など防災・減災啓発活動を実施。また、発災時に協力頂いた地域住民や民生委員との繋がりを活かし、行政と連携した避難所運営の協力体制構築など進め、地域防災力向上を目指し活動。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(電話番号) 0952-82-3111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Facebook) <https://www.facebook.com/omachi.chiikiokoshi>

基本情報



【年 齢】
57歳
【出身地】
東京都 大田区
【転出元】
東京都 大田区
【前 職】
会社員
【活動時期】
R2.4~
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

両親共に東京育ちで田舎がありません。旅行や親戚の田舎を訪れるたびに、地方での暮らしに憧れるようになり地域で役に立てる事があれば、是非、移住したいと思いました。

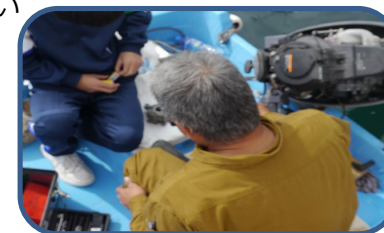
今後の抱負・任期後の目標

地域に根差した活動を続け、移住者の指針を作りたいと思っています。

活動内容

● 「地域の生活環境向上」と「観光ポイントの美観の維持」「地域特産品の継承」

地域に公共交通機関がなく自動車は必需品ですが地域に自動車整備工場がなく緊急対応ができず修理に時間がかかるので車や農機、船舶の修理依頼を受けています。高齢化で除草作業や倒木処理が滞ってしまうので、できる範囲で活動しています。



除草作業での観光ポイント制作



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) hidemi.enomoto@city.sasebo.lg.jp
電話番号 黒島支所 0956-56-2001

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(フェイスブック) <https://www.facebook.com/sasebochioko>
<https://www.facebook.com/96shima>

基本情報



【年齢】
31歳
【出身地】
神奈川県 川崎市
【転出元】
東京都 文京区
【前職】
保育園 調理師
【活動時期】
R4.4~
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

「平戸のきれいな海と人情に惚れて」
以前より田舎に住みたい、自身が癒されるきれいな海の側で暮らしたい、人の温かさに触れていたいと考えていました。将来、6次産業に挑戦する夢を持っており、地方移住では「食」に携わる仕事を優先事項で探し、マッチしたのが平戸市でした。さらに地方移住フェアでOBの方が親身に対応してくれたこと、支援が整っていることに安心感を抱き、応募を決めました。平戸市を知っていたわけではないのですが、今では地域に惚れ、地域のために動き続けたいです。

今後の抱負・任期後の目標

地域の方も観光で来た方もみんなが楽しく交流できる場を目指して、農業体験や地元食材を使った調理体験等のイベントを企画していきたいです。さらに地域食材の味を伝えるために、まずは手に取ってもらいやすく、目を引く加工品を製作していきたいです。地元の味×流行フードとして新しいけれども親しみやすいものを目指します。「食」を通じて多くの人が笑顔になり、「食」が人との繋がりのきっかけになるよう努めます。

活動内容

●農業で地域と関わる

まちづくり運営協議会を通じて、地域生産者から農業を学んでいます。まち協事業の小麦栽培に参加し、参加者とのコミュニケーションを通して地域の現状を把握するよう努めています。農業体験イベント等を企画するためにも、まず自身で学び、実践することでスキルアップしていきたいです。



●農業体験、調理体験

小学生向けの食育イベントに講師として参加しました。座学では小麦の成長や製粉の仕方を説明し、収穫体験では地域農業・地域食材への興味が増進するよう一緒に汗を流し、調理体験では作る楽しさや食欲増進に繋がる取り組みとなるよう心掛け実施しました。



●地域食材の商品

地域で収穫された小麦粉・野菜を使って、お菓子やお惣菜を製作しています。まずは地域の方に食べていただきたく、月に1度の地域市場「ぴんぴんシュシュ」で販売しました。地域になじみ深い味に近づこう話を聞きながら今後も改善していきたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

平戸市企画財政課（電話番号）0950-22-9105

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

来年度から始動を予定しています

基本情報



【年齢】
37歳
【出身地】
大阪府茨木市
【転出元】
京都府京都市
【前職】
芸能活動（ラーメン屋）
【活動時期】
R4.9～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

幼少期からの夢だったお笑い芸人（タレント）を引退した時に、他にやりたい事が見つかりませんでした。そんな時に、以前から知ってはいた地域おこし協力隊についてきちんと調べてみると、興味がわきました。芸能界でつちかったコミュニケーション力と話術をいかせるチャンスと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

今後は地域みなさんが楽しめる交流を企画しています。移動型のオリンピックなど思案中です。任期後は地域の方が食べたいと言っている「ラーメン屋さん」を開業できればと思っています。

活動内容

● 文化的景観を守り、地域住民の心を守る

文化的景観を守る為と、集落支援の為に空き家となっている家屋に生えている「ツタ」の除去作業を行いました。



● パズルで作ろうピースの輪

コロナ禍で人の集まりが少なくなっている中で、今までよりも小規模、少人数で開催している老人会の集まりに、地域の風景がで作ったジグソーパズルを少しずつ完成させて、いつもの集まりのなかにひとつ目標も定めて達成感を分かち合う為に運営。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) k.hamamoto@town.shinkamigoto.nagasaki.jp
(電話番号) 0959-53-1113

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) https://www.instagram.com/chioko_snkm/
(Facebook) <https://www.facebook.com/kami510chioko>

基本情報



【年齢】
55歳
【出身地】
東京都目黒区
【転出元】
東京都杉並区
【前職】
起業コンサルタント
加工食品診断士
【活動時期】
R2.4～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

退職後、彼らの郷里である熊本県にUターンした親の介護問題が発生し、二拠点生活の方法を考え始めていた時に、ふるさと回帰支援センターHPで“地域おこし協力隊”の制度を知り、ビッグサイトのイベントに参加し菊池市の協力隊に応募。

今後の抱負・任期後の目標

加工食品診断士として安心安全な調味料の普及を行っていききたい。地元の豊かな恵みと温かい人々のマンパワーを活かし安心安全な調味料の製造もできたら・・・と考える日々。ターゲットは差別化を狙う幼稚園や学校給食。地元のおいしい物とセットにし、都会向けのサブスクもやってみたい。

活動内容

●おとな食堂

フードドライブで集めた食材や、道の駅などから提供していただいた野菜を活用し、子どもシェフ達が独創的で予想外に美味しい創作料理を大人に振る舞う。子供たちの料理へのハードルを下げると同時に、大人たちの本音トークの場の提供を目指している。



●仕事の家庭教師

市役所や商工会に相談に行くほどではないけれど、これが解決したらスッキリする！前に進める気がする！そんな小さなお悩みを持ち込んでいただき一緒に考える場の提供。市役所を飛び出して定休日のカフェをレンタルして開催中。



●召しませ着物（浴衣）

歴史のある菊池のまちには和装がとてもよく似合う。まちを和服で歩く人を増やすことを目的とし、地元のお母さんたちに浴衣を着つけて頂いたりカメラマンによる写真撮影を行ったりしている。和装の関係人口を増やすべく着付け教室も定期開催中。今後は着物で参加したくなるイベントも開催していく予定。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) kk.labplus@gmail.com (古閑氏の会社)

shoukou@city.kikuchi.lg.jp (菊池市商工振興課)

(電話番号) 0968-36-9720 (菊池市商工観光課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

<https://www.facebook.com/菊池市-地域おこし協力隊-765929873524925/>

基本情報



【年齢】
33歳
【出身地】
兵庫県神戸市
【転出元】
熊本県熊本市
【前職】
山小屋アルバイト
【活動時期】
R4.9～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

夫の故郷であるウクライナが軍事侵攻を受け、玉東町でもウクライナ避難民を受け入れるプロジェクトが始動したことを人伝いに聞いた。ウクライナへの渡航歴もあり、多少ながらウクライナ語がわかるので自分に何かできることがあるのではと感じた。また、ちょうど、今年から夫の仕事で熊本県に移り住んだところでタイミングが良かったこともあり、応募させていただいた。

今後の抱負・任期後の目標

現在町に避難したウクライナ避難民の方々は来年夏～秋まで有効のビザを持っていることもあり、この1年は日本で生活に彼らが慣れることができるよう、また自立できるように支援していきたい。同時に、ウクライナ人のみならず他の外国人住民と日本人町民が共生し、共に良い影響を与えあえるような町づくりに尽力したい。

活動内容

●ウクライナ避難民受け入れプロジェクト「Orange Network Project (ONP)」

玉東町と特定非営利活動法人【れんげ国際ボランティア会 (ARTIC)】と協働でウクライナ避難民受け入れプロジェクトを発足。現時点で4世帯の家族を受け入れており、チームで協力して日々の生活支援、教育支援を行っている。



●ウクライナ避難民4世帯受け入れ

避難民受け入れに伴い、空港への迎え、メディア取材や歓迎セレモニー対応、そして日本の制度や慣習を紹介するオリエンテーションの実施を行った。



●木葉小学校にて多文化共生プレゼンテーション

JICAとONP共同で避難民の子どもを受け入れる小学校にて多文化共生プレゼンテーションを行った。私はウクライナの国情報や簡単な言葉の紹介、当日の簡単な通訳を担当した。

●町民誌で世界について伝えるコーナー作成

多文化共生促進の一環として、「ハローワールドGYOKUTO」コーナーを町広報紙にて毎月連載している。初年度はウクライナという国をテーマに、文化紹介ややさしい日本語をテーマに記事を作成している。

第一回 ウクライナって、どんな国？

玉東町でウクライナ避難民を受け入れることになったことはみなさんご存知かと思いますが、これをきっかけに、町民のみならずウクライナをはじめとする世界について、一緒に学んでみませんか。ということで、今月から世界の国々を紹介する連載をスタートします！

基本情報	場所	ウクライナの国旗の意味
名称：キープ 部課：603.628課(TEL:033773734) 常務：幸弘 小栗 藤(ウクライナ支援部) 副常：ウクライナ支援部(TEL:033773734) ロシア語	玉東町 木葉小学校 〒962-0001 熊本県玉東町木葉 電話：096-942-2111	青は青空、黄は小麦畑 肥沃な大地のある、農業大国のウクライナらしい国産です。

7月版と7月版を掲載しています。電車やバスで外国に行けません！

連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
 主の活動であるウクライナ避難民受け入れ事業HP：<https://orangenetwork-on.com/>

基本情報



【年 齢】
42歳
【出身地】
東京都 日野市
【転出元】
東京都 日野市
【前 職】
木造住宅加工工場の配送・
生産管理、ベトナム人技能
実習生世話役
【活動時期】
R2.10～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

- ・未知なことに挑戦したい
- ・地域の人と一緒に面白いことをして、一緒にたくさん笑いたい

今後の抱負・任期後の目標

- ・キャンプ場をよりたくさんの人に利用していただき、当地域の豊富な自然に恵まれた素敵な山里のファンを増やす
- ・地域の人が自信を持って作っているお米がより高く売れるシステムの構築
- ・地域でのイベント（お祭り等）を企画し、子供からおじいちゃんおばあちゃんまで楽しめることをしていく

活動内容

●キャンプ場運営

山里の地域にて自然を活かしたキャンプ場を2箇所開設しました。
1箇所目は休耕期の田んぼ、2箇所目は使用していない山林です。
開設にあたり、地域の人に多大なる協力をしていただきました。



●キャンプ場を通した野外体験・地域交流

運営している田んぼのキャンプ場にて地域の保育園の子供達と田植え・稲刈をして、できたお米をキャンプ場で竹で炊いて食べました。
また、地域の子供達・大人の人達にキャンプ場に集まっていただきBBQ・竹のそうめん流し等をしています。



●農業実践

地域の農事組合の方々と一緒に当地域のメイン作物の米を中心に作りながら、農業を教えていただいています。また、田んぼを貸していただき自分でお米を作り販売にもチャレンジしています。
農業を通して、地域のこと・地域の人達をより知っていき、地域の発展に繋がっていきたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) machi85machi@gmail.com
(電話番号) 0966-82-2511
葦北郡芦北町役場企画財政課

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】
Facebook 【芦北町地域おこし協力隊】 INSTAGRAM 【oonocamp】

基本情報



【年齢】
39歳
【出身地】
熊本県多良木町
【転出元】
神奈川県川崎市
【前職】
会社員
【活動時期】
R3.9.13～

協力隊に応募したきっかけ

キャリアアップを目指し転職を考えていた時期に、母からの勧めで地域おこし協力隊の話を知りました。地元のために働けることや、人と直接関わる仕事内容に魅力を感じ応募させていただきました。

今後の抱負・任期後の目標

任期中にできるだけ多くの福祉関係の資格を取得し、任期後も福祉関係で水上村の発展に貢献できるような仕事に就きたいと思っています。

活動内容

●地域高齢者の介護予防活動の支援、参加者の送迎

- ・一般介護予防事業 「元気くらぶ」
- ・水上村社会福祉協議会委託事業「ふれあい会」
- ・住民主体の「通いの場」の支援



●高齢者支援に必要な活動及び現地での支援

- ・地域おこし協力隊合同活動
「地域の清掃活動・避難所の支援活動」
- ・一人暮らし高齢者の見守り・傾聴活動
- ・公民館での地域高齢者との交流会



●熊本保健科学大学との包括連携協定による高齢者の活動支援

熊本保健科学大学との合同事業の体力測定・チェックリストや各種調査への支援

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) motooka@vill.mizukami.lg.jp
(電話番号) 0966-44-0313 (職場・水上村役場 保健福祉課)
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram [mizukami_kyoryokutai5](#)
[mizukami_hokenfukushi](#)

基本情報



【年齢】
39歳
【出身地】
東京都 東村山市
【転出元】
神奈川県 藤沢市
【前職】
外資系企業マネージャー
【活動時期】
R3.10～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

2020年まで北米で18年過ごす中で、日本の風土・文化をきちんと自らの五感を通して知りたかったことがそもそもの動機。そして、土地の魅力を地域内の方々に再認識してもらい、海外を含めた地域外の方に共感してもらおうきっかけづくりを考えていました。

その中で、大分県佐伯市の地域の方々のやさしさ、豊後水道や番匠川を育む美しい自然というアウトドアフィールド、今後の持続可能性・責任ある社会構築に不可欠なオーガニック憲章に大いに魅了され佐伯市を選びました。

今後の抱負・任期後の目標

定住することが大切なことに理解を示しつつ、人・知識・経験が循環する社会を目指しています。
一つの地域に移住定住者が増えるという事は、他地域からの流出があるという事、他の地域の発展の機会を奪う事になりかねないと自問自答しています。日本全体の幸福を考えると、もっと軽やかに地域と地域が、日本と世界がワクワクする事で繋がっていくことを夢見る者の存在もまた大切と考えています。任期に捉われずに、そのような自分を受け入れてくれる地域や組織と共にのんびり生きていくことが目標です。

活動内容

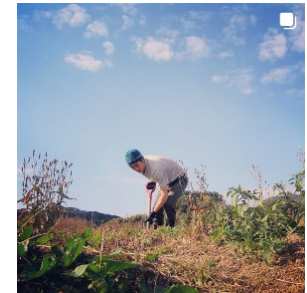
●アウトドア推進による地域活性化

「自然」というコンテンツだけではなく、他の付加価値と組み合わせたイベントを企画運営。地域外の方が楽しんで終わるのではなく、地域内のデマンドも考慮し、双方のメリットを考える。ミニマム・オペレーションにすることで、地域住民が自立し、継続運営できるよう、様々な意味でのサステナブルな道筋をのんびり模索中。



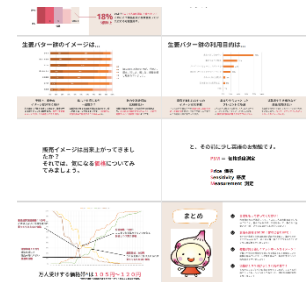
●実証有機圃場の管理運営

耕作放棄地や就農問題を抱える中で、「農業」や「オーガニック」というものにまず興味関心を持っていただけるよう、家庭菜園イベントを実施。育てる喜び→市民農園→休耕地へと繋がっていくストーリーを目指す。また、圃場にウッドデッキを作るなどして、気楽に、気軽に楽しめる空間づくりをしながら、今日も雑草と格闘中。



●その他

各種アンケート調査や顧客分析を通して、行政・民間含む地域の方々へ、最適なオペレーション、改善点の洗い出し、潜在的なデマンド等を共有中。
地域の人々にデータの重要性を理解してもらい、主体性を持ってアクションを起こしてもらい、失敗を恐れぬ文化の浸透を目指す。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(電話番号) 0972-46-1111 (大分県佐伯市 弥生振興局)

基本情報



【年齢】
24歳
【出身地】
インドネシア
【転出元】
大分県別府市
【前職】
なし
【活動時期】
R3.11月～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

私は、竹田市の経済的、文化的、社会的発展に貢献できる外国人、特にインドネシア人のコミュニティを作りたいと考えている。日本人と外国人と一緒に竹田市を作り上げていく姿を見ることができると、とても良い機会だと思う。

今後の抱負・任期後の目標

外国人技能実習生の受け入れを継続的に支援し、竹田市での実習生の生活や仕事を可能な限りサポートしていきたいと考えている。また、竹田市の国際的なコミュニティを常に向上させることを目指している。

活動内容

●外国人技能実習生受入業務従事

技能実習監理団体として、竹田商工会議所が取り組んでいる「外国人技能実習生」受入事業に従事する。海外から規律と情熱を持った若い実習生を受け入れることで、労働力を必要としている企業の手助けをすることを目的としている。



●技能実習生入国後講習担当

竹田商工会議所では、約1ヶ月間、入国した実習生に日本の生活習慣やルール、マナーについての指導をし、今後実習先での実習が少しでも円滑に進むことを目的として講習を行っている。



●ランゲージ交流ルーム

担当者として、様々な活動を通じて、外国人と日本人が交流し、互いの言語や文化を学び合う機会を提供することを目指している。活動は毎週水曜日の夜、竹田交流プラザで行っており、年齢、性別、経歴に関係なく、誰でも参加できる。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) Lenardi@taketa-cci.or.jp
(電話番号) 0974-63-9018

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(竹田商工会議所) <https://www.taketa-cci.or.jp/>



LINEはこちら

基本情報



【年 齢】
38歳
【出身地】
岐阜県 岐阜市
【転出元】
岐阜県 岐阜市
【前 職】
サッカークラブ運営・
人材派遣・電力事業など
【活動時期】
H31.4～
(4年目)

協力隊に応募したきっかけ

知人から都農町でスポーツによる地域活性化のプロジェクトが立ち上がることを聞き、これまでの経験を活かした活動ができると感じたため。

今後の抱負・任期後の目標

ツノスポーツコミッションの基盤づくりを行い、現在取り組んでいるプロジェクトを継続、発展させる。また、新型コロナウイルスの影響により滞っていた交流人口増加に対する施策や、地域課題に取り組む人材の育成にも本格的に取り組みたい。

任期後は、継続してツノスポーツコミッションの運営を行いながら、全国の様々な地域とのネットワークを構築し、スポーツによるまちづくり・人材育成という分野全体が活性化されるような取り組みを都農から発信したい。

活動内容

一般社団法人ツノスポーツコミッションの代表理事として、各種事業の企画・運営・管理等を行う。
一般社団法人ツノスポーツコミッションは、スポーツを活用した若者の移住促進と、地域課題の解決および地域ぐるみでの人材育成を目指す。

①つの職育プロジェクト

株式会社J.FC宮崎が運営するサッカークラブJ.FC MIYAZAKI(現ヴェロスクロノス都農)を都農町へ誘致し、都農町とJ.FC宮崎との三者協定により、互いの資源や機能などの活用を図りながら都農町への移住・定住を促し、都農町の農業・商業・工業・福祉等、労働力が不足している町内事業者等での職場体験を通じ、自分に適する職業を見つけた若者が夢を追いかけながら町の新しい活力になることを目指す。地域おこし協力隊制度も活用し、競技活動と同時に住居整備、にぎわい創出、魅力発信などの移住定住対策事業、また期間産業である農業の担い手不足緩和のための農家支援、マッチング事業なども行う。

②ツノスポーツアカデミー

「よき社会人であれ」をコンセプトに「スポーツ」「生活」「教育」「職育」を通して少年期から青年期までの若者を、行政、地元企業、農家等、地域ぐるみで育てる取組。町内唯一の高校だった都農高校の閉校に伴う若者流出の対策としての側面もあり、所属する高校生は町外、県外出身者がほとんどで、高校の3年間を町内の選手寮で生活しながらスポーツ、教育、職育に励む。地域を引っ張って行く人材を育てるとともに、若者がチャレンジしやすいまちづくりを目指す。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) info@tsunospo.com (電話番号) 0983-32-0137

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(HP) <https://tsunospo.com>

(Facebook) <https://www.facebook.com/tsunospo>

(Twitter) https://twitter.com/tsuno_oko

(Instagram) https://www.instagram.com/tsuno_oko

基本情報



(左側)

【年齢】
35歳
【出身地】
鹿児島県鹿児島市
【転出元】
東京都杉並区
【前職】
国際NGOにて海外開発協力担当
【活動時期】
R2.10～
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

小さい時から当たり前にあった桜島は、見るとほっとする存在で、県外や国外から帰ってくると、鹿児島愛を感じさせてくれる桜島。そんな地元の身近な存在を生かして、地域をより元気にする活動をしたい！、と思い応募しました。

同世代が鹿児島に戻ってきたい、住みたい、と思えるような活動に繋がってきたいです。

今後の抱負・任期後の目標

地域の魅力を外部へ発信し、移住者や来訪者の増加に寄与できる活動を行ってきたい。

桜島の空き家を活用した、地域の拠りどころや、地域密着型マルシェなどの開催を目指したい。

活動内容

●地域情報誌「さくらじま便り」の発刊

地域の魅力を桜島内外に発信する地域広報誌を桜島在住のイラストレーターと協力して発刊しました。また、オンラインでも読めるようにアップしています。



●地域イベントの復活開催

夜空を見ながら徒歩で桜島を一周する「サウチナイトウォーク」を復活して開催しました。

夜間に見る桜島の姿や夜空に照らされる地域の情景など、地域資源の新たな魅力発掘につながりました。



●イベントの開催や開催協力

地域住民やダンス講師と共に、地域での生涯学習の充実を目指すべく、親子ダンスイベントを、自主学习グループとして開催しました。

また、学校シューズを再利用するための洗い方を子どもが学ぶイベントでは、地域事業者の方々へのご協力のお願いや、島内の学校への参加の呼びかけなどを協力させていただきました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) a.masudome@sakurajima.gr.jp

(電話番号) 099-245-2550 (勤務先: NPO法人 桜島ミュージアム)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(Facebook) <https://www.facebook.com/Sakurajima.1117m>

(twitter) <https://twitter.com/LifeSakurajima>

基本情報



【年齢】
32歳
【出身地】
鹿児島県鹿児島市
【転出元】
大阪府吹田市
【前職】
広告代理店／メディアプランナー
【活動時期】
R2.10～
(3年目)



協力隊に応募したきっかけ

学生時代にソーシャル/コミュニティデザインといったキーワードに触れたことで、自分のスキルを地域活動に活かせないか検討したことが、はじめの一歩のような気がします。就職後、よりやりたいことに近づくために地域に飛び出すことが必要なのでは、という考えに至り、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

鹿児島／桜島の地域は、魅力的な自然や人の営みがあり、また地域想いの方もいらっしゃる素敵なエリアです。一方で、地域の方のお話を聞けば聞くほど課題は山積していることを実感しております。世界的に見れば偏った課題と見えたり、“自然”に抗う行いと捉えられたりすることも地域課題にはあるように思えます。それでも、この地域が積み重ねてきた努力の上になにかできることがあると信じて、正しいと思えることに時間の限り尽くしていきたいと思っております。任期後も、生まれたての我が子が成長していける環境を、この地域に残していくための活動を、この地域で行なっていきたいと考えています。

活動内容

●地域産業(農業・観光)活性化支援

農業支援として、魅力的な商品の発信方法の磨き上げをすべく、イベント企画や広報支援を行っております。

また、観光支援として、2次交通の問題や地域のキャッシュポイントづくりとして、Eバイクによるガイドツアーを企画開発しております。



特産品PRイベント広報支援



Eバイクツアー開発

●交流人口(主に学生)創出支援

地域には高校や大学がなく、若者と地域の関わりしろが少なくなり、地域の人材流動性に欠けていることが地域活性化への課題と捉えています。そのため、鹿児島の学生と地域を結びつける活動として、桜島でのインターンの受入活動や地域コミュニティイベントへの誘致活動を行っております。



農家との交流



地域コミュニティとの交流

●高齢者等へのデジタル支援

桜島地域は少子化とともに高齢化も進んでおり、昨今の急速なデジタル化に伴い、デジタルに不慣れな高齢者等も増えています。そういったデジタルデバイドを少しでも解消するため、スマホ教室を開催するなど、地域の高齢者等へのデジタル支援を進めています。



ポスター



勉強会の様子

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) r.oshikawa@sakurajima.gr.jp

(電話番号) 099-245-2550 (勤務先: NPO法人 桜島ミュージアム)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Facebook/Instagram: 押川蓮斗(Rento Oshikawa)

協力隊公式ウェブサイト: <https://sakurajima-area-okoshi.studio.site/>

基本情報



【年齢】
30歳
【出身地】
大阪府堺市
【転出元】
兵庫県三田市
【前職】
電機メーカーの工場営業
【活動時期】
R4.1～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

コロナ禍の影響で、在宅勤務や外出自粛が求められるなか、これまでの働き方や暮らし方に違和感を感じるようになった。人とのつながりが感じられる環境に身を置きたいという思いから、地方移住に関心を持ちはじめ、ローカルキャリア相談会に参加したことをきっかけに、鹿屋市での協力隊を目指すようになった。

今後の抱負・任期後の目標

着任から1年弱経って、まだまだ地域住民とのネットワークが狭いと感じている。今後は、少しでも多くの地域住民と関わりながら、地域とのつながりを強固にしていきたい。具体的な活動としては、地域住民が先生となって好きなこと・得意なことを教え合う「趣味の教室」を開催したい。特に、郷土料理や魚の捌き方など、地域の方があたりまえに感じていること、地域ならではのものを活かした講座を、地域の方と一緒に作っていきたい。

活動内容

●耕作放棄地を再生して野菜づくり

人口減少や高齢化に伴い、地域には耕作放棄地が増え、鳥獣被害や景観悪化に繋がる問題となっている。少しでも状況を改善しようと、地域団体で畑を借り上げ、野菜づくりに取り組んでいる。収穫物販売による自主財源確保や、植付/収穫体験による交流機会創出を目指している。



●地域交流の拠点づくり

小学校の廃校を活用した宿泊施設「ユクサおおすみ海の学校」を拠点に、地域住民や地域外からの多様な世代が交流できる、つどいの場づくりに取り組んでいる。R4年度は、スクエアステップ交流会、SDGsキャンプの受入、軽トラ朝市等を企画実施。



●「荒平天神」の賑わいづくり

地域の宝として大切に守られている、風光明媚な観光スポット「荒平天神」をはじめとした、地域の魅力を発信し、賑わいを作りだそうという活動。昨年度、新しいお土産品として御朱印や合格鉛筆を開発し、多くの来訪者に購入いただいている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(電話番号) 0994-45-6930

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】



Homepage



Facebook



Instagram

基本情報



【年齢】
27歳
【出身地】
ベトナム（ゲーアン署）
【転出元】
鹿児島県鹿児島市
【前職】
大学院生
【活動時期】
R4.7月～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

日本に来てからは8年目です。学生時代には、在鹿児島ベトナム人会と共に、鹿児島県民とベトナム人住民を結ぶ活動に努めていました。卒業後は、勉強した知識、また得た経験や体験などを活かせる仕事が第一の希望でした。そして、7年間優しく育ててくれた鹿児島に大恩返ししたいから、鹿児島で働きたいとずっと思っていました。そのため、大崎町への多文化共生の推進を目的に協力隊員になりたいベトナム人を探していると聞いた時、躊躇わなく応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

大学での専攻は農業だったため任期後に母国に帰り、農業・農村開発省の国際協力課に働くことを目指しています。ベトナムにいてもベトナムと日本の友好事業に貢献したいと思っています。また、大崎町はゴミリサイクル日本一の町であるため、帰国後に大崎町の素晴らしさを環境問題が大変となっている母国にも広げていきたいと考えています。

活動内容

●ベトナム語の通訳・翻訳

大崎町役場の広報誌、ゴミ分別ガイドパンフレット、ゴミ分別手引きなどの翻訳をしています。そして、企画課の活動でもあり、役場本館の住民環境課も共に動き、窓口に来られるベトナム人の方々に、また交通安全講座、ゴミ分別講座、防災訓練などで通訳をしています。



●外国人住民の生活の支援

ベトナム人住民とコミュニティを取るため、Facebook への「在大崎町ベトナム人会」を作成し、管理しています。これを通して町内のベトナム実習生の声を聞いて、また夜間にも悩み相談、対面相談などを受けています。



●国際交流・多文化共生の理解の促進

町民の異文化の理解を深めることができるようにベトナム文化紹介、国際交流イベントの企画を立ちあげて、実施しています。町内の在住外国人も日本人と接する機会を増やすため、イベントの一部の内容を担当させます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
大崎町役場 企画政策課
(電話番号) 099-476-1111

基本情報



【年齢】
50歳
【出身地】
鹿児島県鹿児島市
【転出元】
鹿児島県鹿児島市
【前職】
調理師
【活動時期】
R3.9～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

自然豊かなところでお店（飲食店）をしたい。という思いから、50歳を目前にチャレンジするなら今と考え前職を退職。

地域おこし協力隊の話を知り、南大隅町の募集があることを知り、すぐに応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域にもっと多くの方が定住できるように、仕事の場を増やし、心豊かな生活を送れるように公民館活動も継続して取組を進めます。

活動内容

● 辺塚だいだいの加工・商品開発

GI登録の「辺塚だいだい」ですが、なかなか販路がなく、集落内ではあまり収穫されずそのままの状態です。

活用方法の幅を広げることを目標に、果汁を使ったムースやゼリーなどを試作してみました。今後は販売できるよう進めていきます。



● 海を望む棚田で手植えにチャレンジ

活動拠点の「辺塚」の米はおいしい！はじめて辺塚に来た時に感じた感想です。今後、この地区で飲食をするならば、自分で育ててみることに。農業の大変さ、大切さ、考え方などを学ぶため、手植え・田車除草など、昔の方法でチャレンジしました。



● 活動拠点「辺塚地区」の関係人口拡大の可能性

鹿児島大学のゼミ、東京農業大学のアジア・アフリカ研究会サークルの研修受入れを、地域の方々と一緒に行いました。地域の生活や歴史、文化。辺塚だいだいなどの農産品について、鳥獣害対策や地理的要因による農業スタイルなどを体験と交流によりお伝えしました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) hetukakyouryokutai2021@gmail.com
(電話番号) 0994-25-1308

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram ID : [minamioosumi.hetuka](https://www.instagram.com/minamioosumi.hetuka)
Facebook ID : 佐多辺塚協力隊

基本情報



【年齢】
29歳
【出身地】
東京都 清瀬市
【転出元】
茨城県 水戸市
【前職】
農業専門学校職員
【活動時期】
R2.7~
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

生まれてからずっと都会暮らしだった自分が、農業を通じて自然と関わりながら暮らす生活の中に自分の生きがいを見つけ、より自然あふれる場所で自分のスキルを磨きたいと思ったため。

今後の抱負・任期後の目標

活動も3年目に入ったことから、まずは任期後も口永良部島に居続けたいという強い気持ちを実現できることを第一に、残り任期中の活動に取り組んでいく。

任期後は、東京の生活で人生の目標を見つけられなかった私が、「ここに来てよかった、この島にずっと住みたい」と感じたように、誰かにとって人生の生きがいを見つげられるきっかけを提供できる活動を島でしたい。

活動内容

●地域のマンパワー

100人の島の1人として、地域行事や手伝いに参加。草刈り・温泉掃除などの日々の活動から、災害復旧活動まで、地域のマンパワーとして活動に取り組んでいる。



●観光案内、情報発信

口永良部島観光案内所の運営の傍ら、SNSを通して観光情報や災害情報など、小さな島の情報発信活動をしている。



●空き家改修

任期中に発見した島の課題の解決、そして自分の生きがいの実現、2つの目標を叶えるため、住めなくなった空き家を解体して、模索しながら夢の実現のために改修を行っている。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Facebook) <https://www.facebook.com/kei.ikezoe.9>
(Twitter) <https://twitter.com/KeiErabu>
(note) <https://note.com/shizengasaki>